

2 幼稚園・保育園、学校や地域、職場などでの教育・啓発活動について、あなたのお考えをお聞かせください。

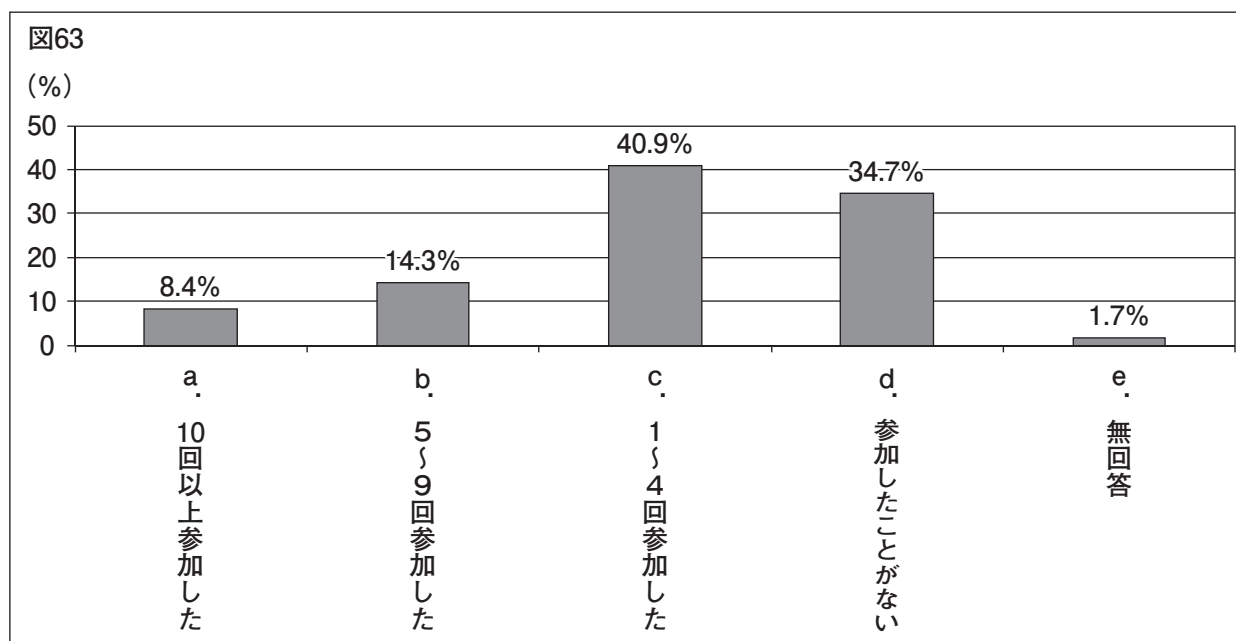
学習機会について

質問8-① あなたは、過去5年間のうちに人権問題に関する学習会や講演会・研修会に参加されたことがありますか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

|   |           |                        |
|---|-----------|------------------------|
| 1 | 10回以上参加した | } → 質問8-②、質問8-③、質問8-④へ |
| 2 | 5～9回参加した  |                        |
| 3 | 1～4回参加した  |                        |
| 4 | 参加したことがない | → 質問8-⑤へ               |

〈分析〉

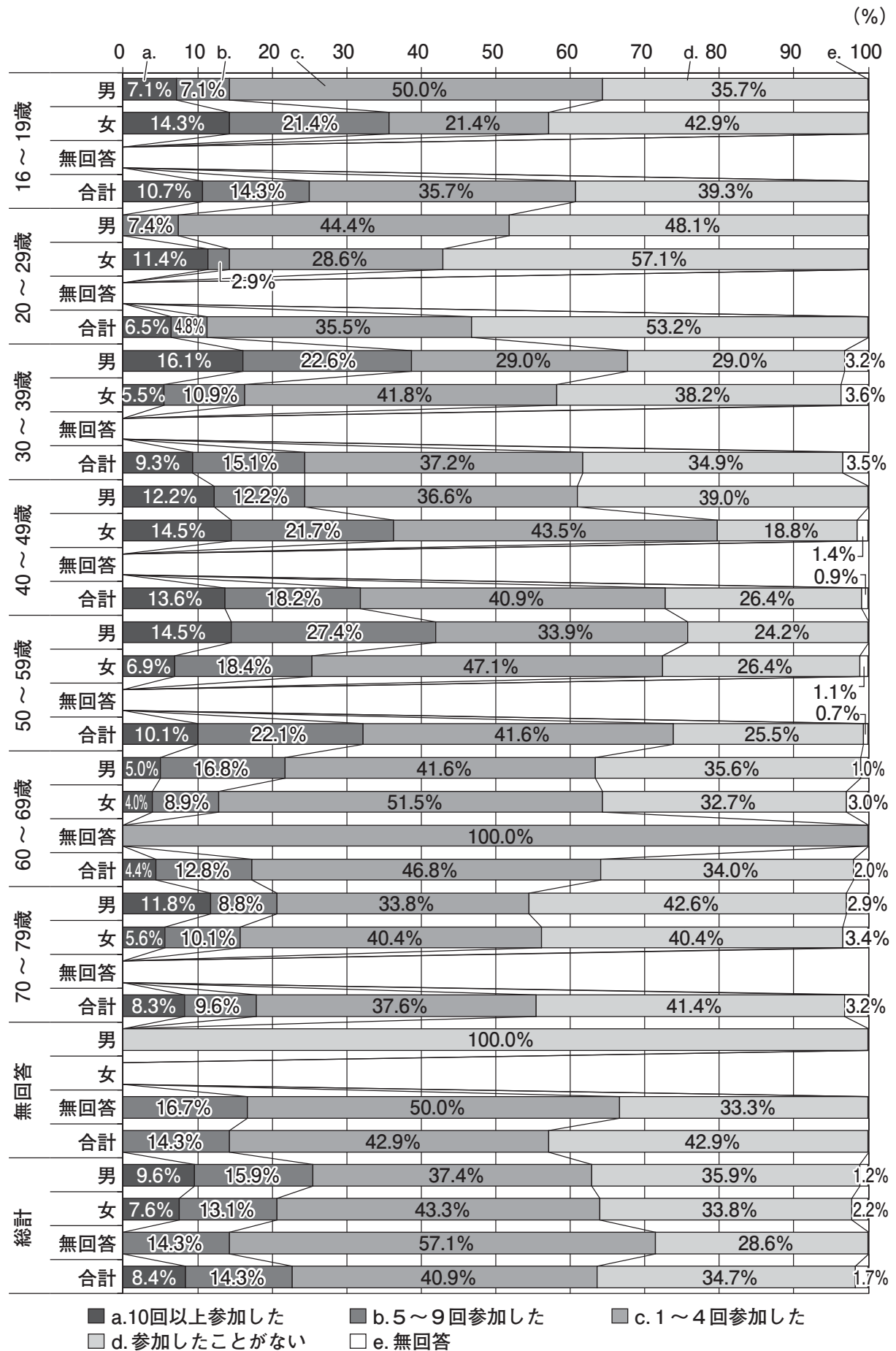
○ 過去5年間に人権問題に関する研修会等に参加したことがある人は63.6%である。[図63]



○ **性別**[図64]で見ると、過去5年間に人権問題に関する研修会等に参加したことがあると回答した人の割合は、男性が62.9%、女性が64.0%となっており、あまり差はない。

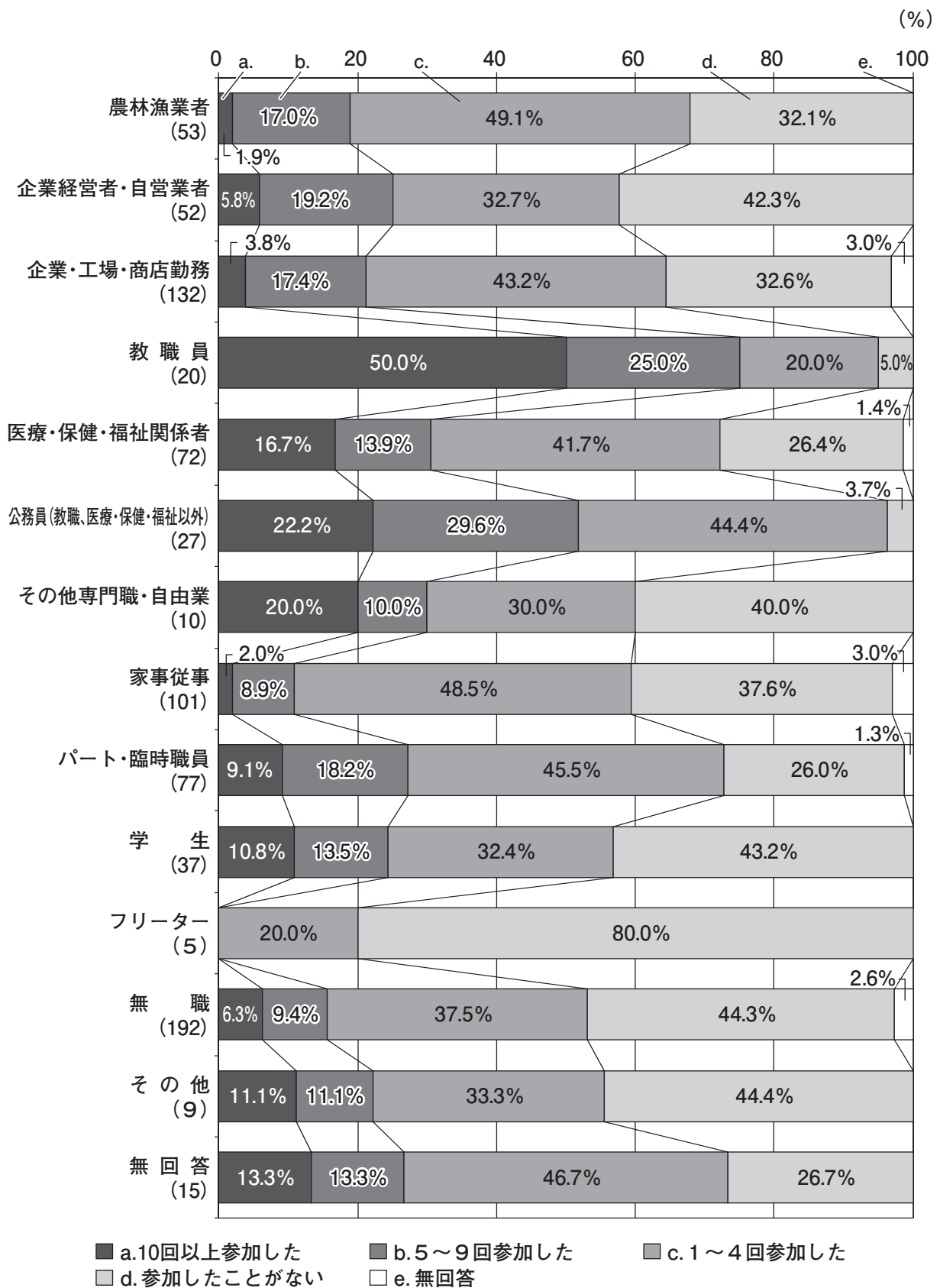
○ **年齢階層別**[図64]にみると、過去5年間に人権問題に関する研修会等に参加したことがあると回答した人の割合は、50～59歳(73.8%)、40～49歳(72.7%)が高く、20～29歳(46.8%)が最も低い。10回以上の参加で見ると、40～49歳(13.6%)が最も高い。

図64



○ 職業別[図65]で見ると、過去5年間に人権問題に関する研修会等に参加したことがあると回答した人の割合は、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(96.2%)、学校の教職員(95.0%)が突出して高い。次いで、パート・臨時職員(72.8%)、医療・保健・福祉関係者(72.3%)、農林漁業者(68.0%)となっている。「a. 10回以上参加した」は学校教職員(50.0%)が最も高い。

図65

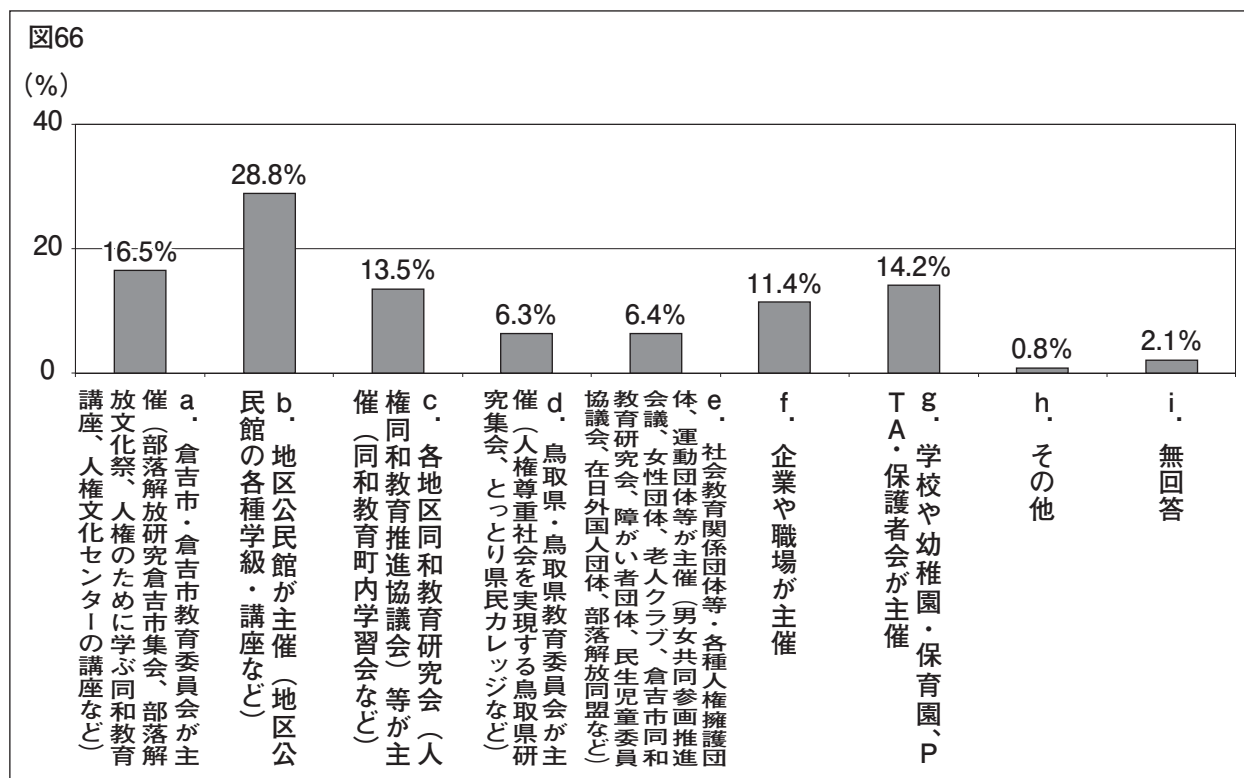


質問8-② 質問8-①で1～3を選択された方にお聞きします。あなたが参加された講演会・研修会等を主催していたのはどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催  
(部落解放研究倉吉市集会、倉吉市部落解放文化祭、人権のために学ぶ同和教育講座、人権文化センターの講座など)
- 2 地区公民館が主催 (地区公民館の各種学級・講座など)
- 3 各地区同和教育研究会 (人権同和教育推進協議会) 等が主催 (同和教育町内学習会) など
- 4 鳥取県・鳥取県教育委員会が主催  
(人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会、とっとり県民カレッジなど)
- 5 社会教育関係団体等・各種人権擁護団体、運動団体等が主催  
(男女共同参画推進会議、女性団体、老人クラブ、倉吉市同和教育研究会、障がい者団体、民生児童委員協議会、在日外国人団体、部落解放同盟など)
- 6 企業や職場が主催
- 7 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者会が主催
- 8 その他 ( )

〈分析〉

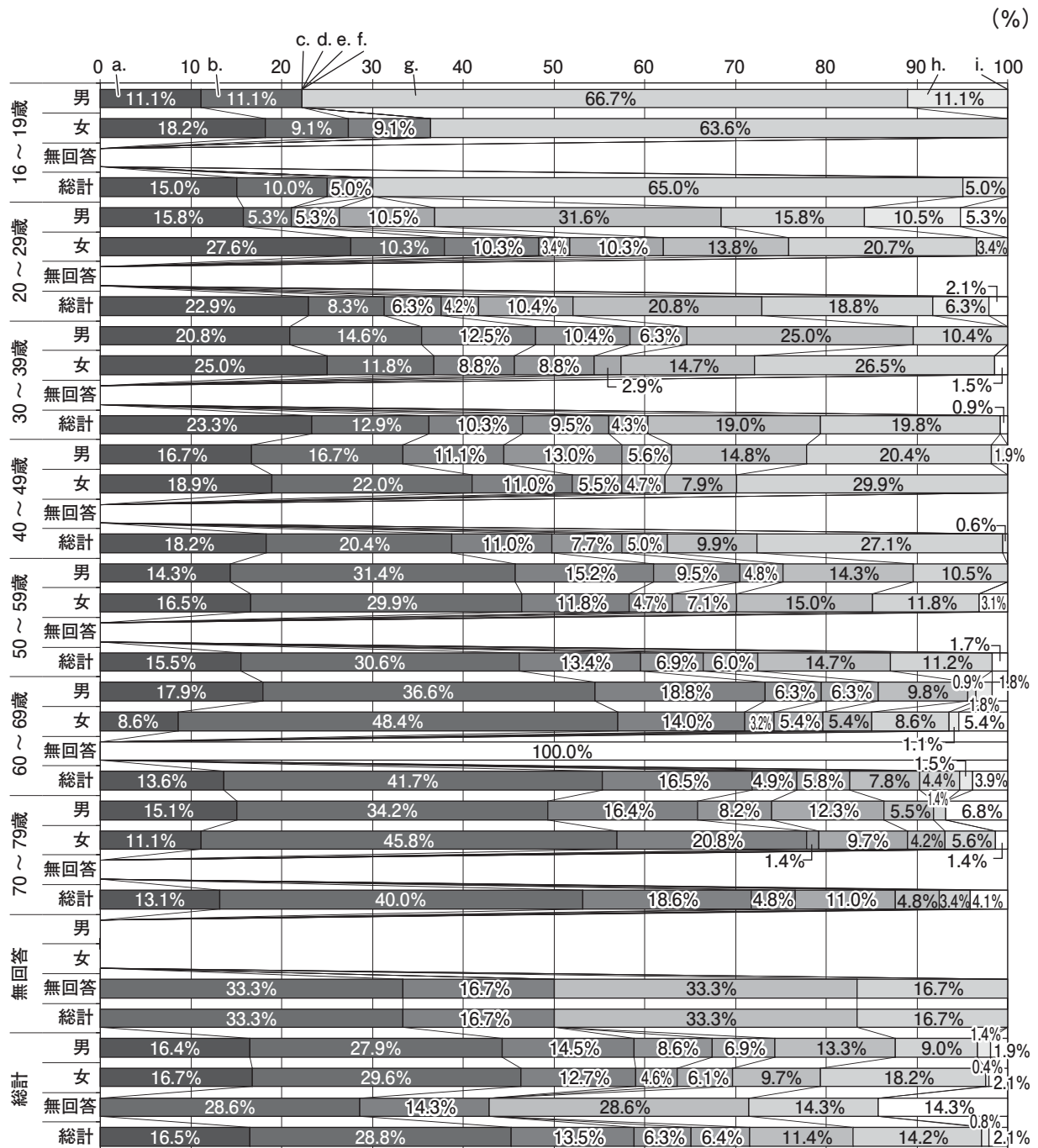
○ 参加した研修会等の主催で最も高い割合の回答は、「b. 地区公民館が主催」(28.8%)が最も高い。次いで「a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催」(16.5%)、「g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者会が主催」(14.2%)、「c. 各地区同和教育研究会が主催」(13.5%)、「f. 企業や職場が主催」(11.4%)の順になっている。[図66]



○ 性別[図67]でみると、男女とも「b. 地区公民館が主催」(男性27.9%、女性29.6%)が最も高い。次いで男性は「a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催」(16.4%)、「c. 各地区同和教育研究会が主催」(14.5%)、「f. 企業や職場」(13.3%)の順である。一方、女性は「g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者会が主催」(18.2%)が2番目に高く、男性に比べ9.2ポイント高い。続いて、「a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催」(16.7%)、「c. 各地区同和教育研究会が主催」(12.7%)、「f. 企業や職場」(9.7%)の順に高くなっている。「f. 企業や職場」は男性に比べ3.6ポイント低い。

- 年齢階層別[図67]にみると、16～19歳は「g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催」(65.0%)が最も高く、次いで「a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催」(15.0%)、「b. 地区公民館が主催」(10.0%)の順に高い。20～29歳以上の年代では、「b. 地区公民館が主催」は20～29歳は8.3%であるが60～69歳、70～79歳は40%以上と年代が上がるにつれ高くなっている。また、「c. 各地区同和教育研究会が主催」も同様の傾向にあり、20～29歳は6.3%、70～79歳は18.6%である。反対に「f. 企業や職場」は20～29歳(20.8%)を最高に年代を追うごとに低くなる傾向がみられる。「g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催」は20～49歳が高く、特に40～49歳は27.1%と最も高くなっている。

図67



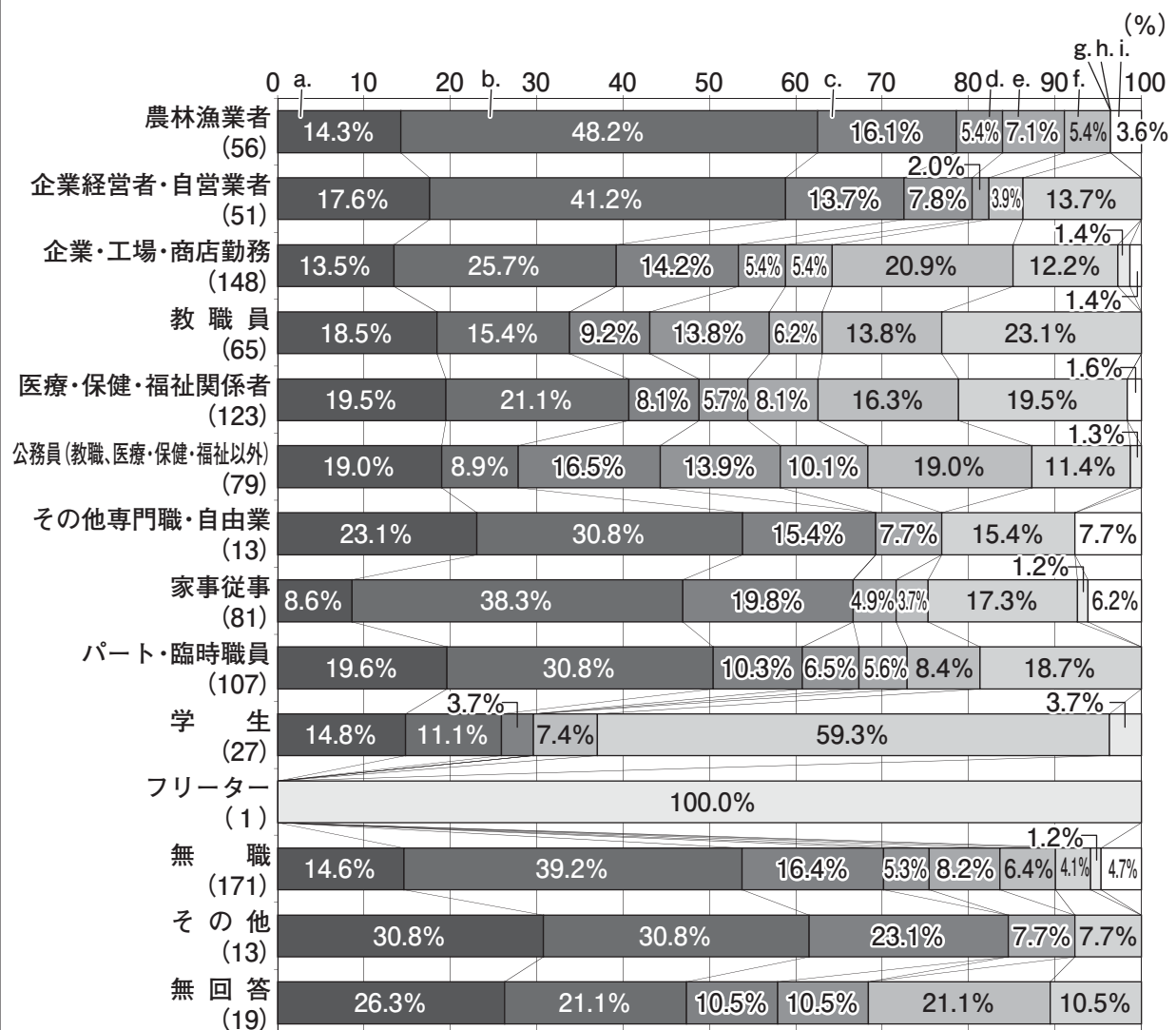
- a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催 (部落解放研究倉吉市集会、部落解放文化祭、人権のために学ぶ同和教育講座、人権文化センターの講座など)
- b. 地区公民館が主催 (地区公民館の各種学級・講座など)
- c. 各地区同和教育研究会 (人権同和教育推進協議会) 等が主催 (同和教育町内学習会など)
- d. 鳥取県・鳥取県教育委員会が主催 (人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会、とっとり県民カレッジなど)
- e. 社会教育関係団体等・各種人権擁護団体、運動団体等が主催 (男女共同参画推進会議、女性団体、老人クラブ、倉吉市同和教育研究会、障がい者団体、民生児童委員協議会、在日外国人団体、部落解放同盟など)
- f. 企業や職場が主催
- g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催
- h. その他
- i. 無回答



○ **職業別**[図68]でみると、「b. 地区公民館が主催」はほとんどの職種で最も高くなっている。特に、農林漁業者は48.2%で最も高く、次いで企業経営者(41.2%)、無職(39.2%)、主として家事に従事(38.3%)の順に高くなっている。一方、その割合が低い職種は、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(8.9%)、学生(11.1%)、学校の教職員(15.4%)である。「a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催」はその他(30.8%)、その他専門職・自由業(23.1%)が高くなっており、パート・臨時職員、医療・保健・福祉関係者、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員、学校の教職員はいずれも20%近くの割合である。一方、主として家事に従事(8.6%)が最も低くなっている。

「c. 各地区同和教育研究会が主催」は、その他(23.1%)が最も高く、次いで主として家事に従事(19.8%)、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(16.5%)、無職(16.4%)の順となっている。「f. 企業や職場が主催」は民間企業や工場、商店に勤める人(20.9%)、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(19.0%)が高く、次いで、医療・保健・福祉関係者(16.3%)、学校の教職員(13.8%)の順になっている。「g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催」は学生(59.3%)が最も高く、次いで学校の教職員(23.1%)となっており、学生、学校の教職員とも主催別で最も高い割合である。医療・保健・福祉関係者(19.5%)、パート・臨時職員(18.7%)も高い。

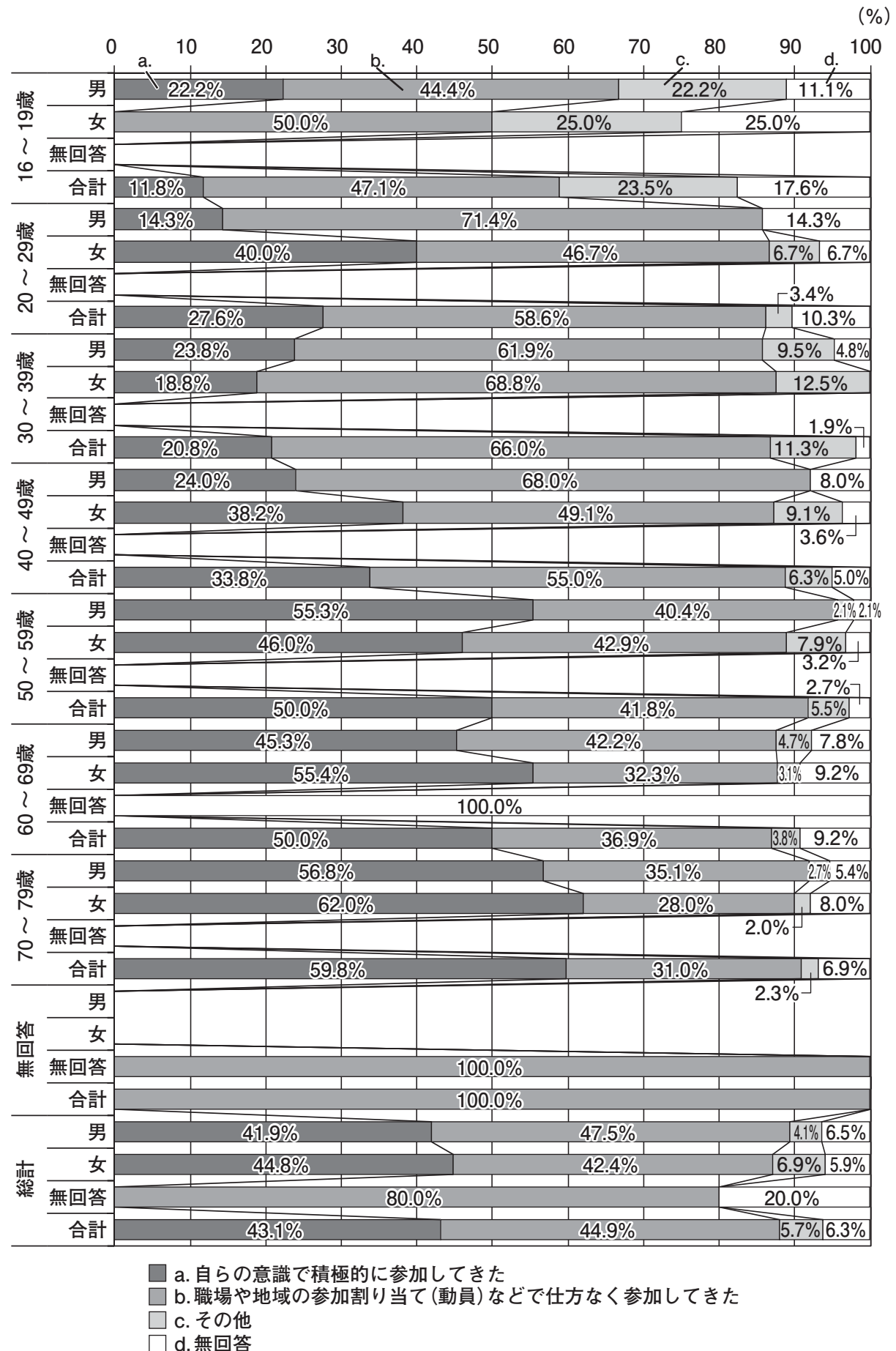
図68



■ a. 倉吉市・倉吉市教育委員会が主催 (部落解放研究倉吉市集会、部落解放文化祭、人権のために学ぶ同和教育講座、人権文化センターの講座など)  
 ■ b. 地区公民館が主催 (地区公民館の各種学級・講座など)  
 ■ c. 各地区同和教育研究会 (人権同和教育推進協議会) 等が主催 (同和教育町内学習会など)  
 ■ d. 鳥取県・鳥取県教育委員会が主催 (人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会、とっとり県民カレッジなど)  
 ■ e. 社会教育関係団体等・各種人権擁護団体、運動団体等が主催 (男女共同参画推進会議、女性団体、老人クラブ、倉吉市同和教育研究会、障がい者団体、民生児童委員協議会、在日外国人団体、部落解放同盟など)  
 ■ f. 企業や職場が主催    ■ g. 学校や幼稚園・保育園、PTA・保護者が主催    □ h. その他    □ i. 無回答



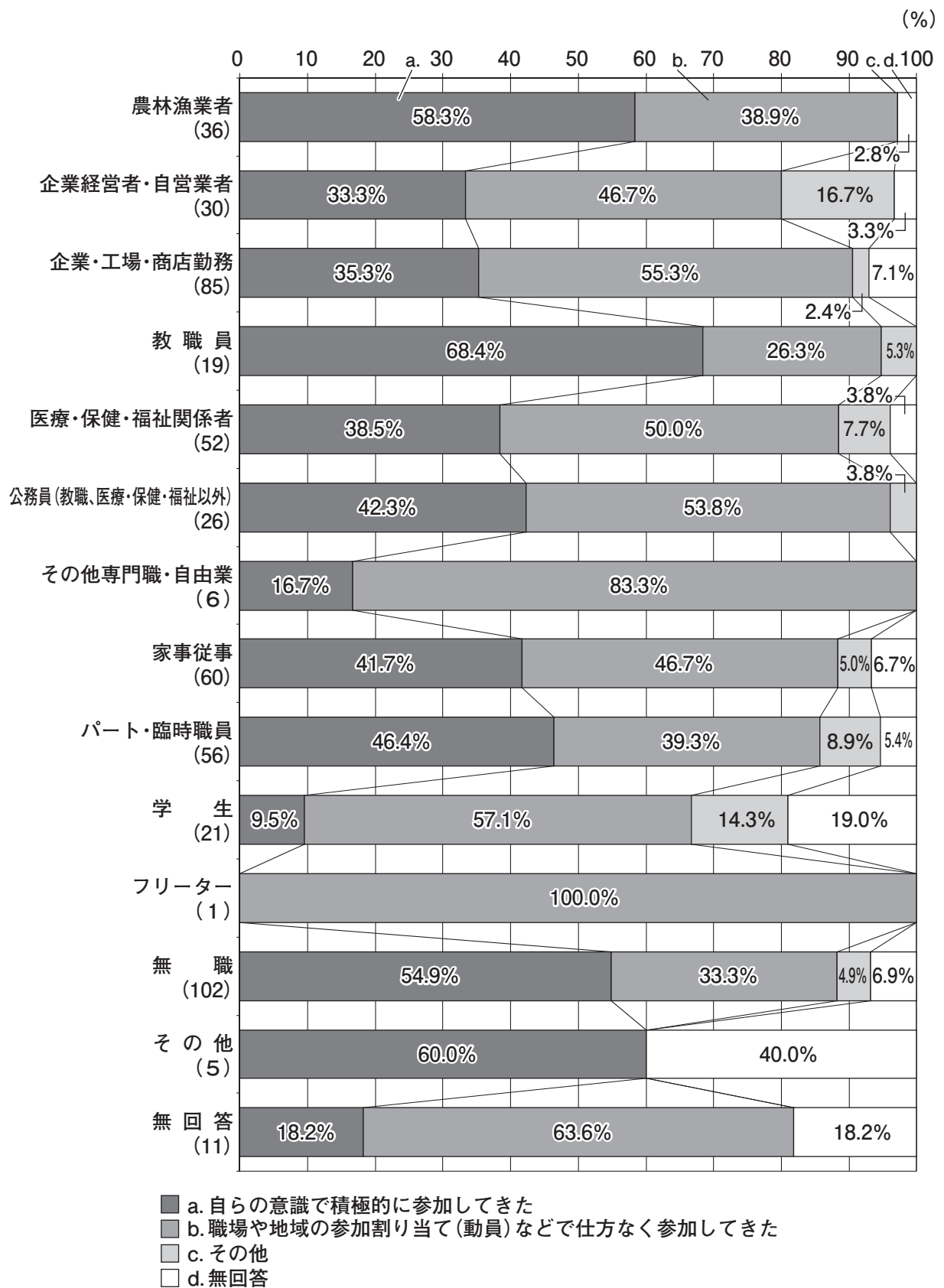
図70





○ 職業別[図 71]にみると、「a. 自らの意識で積極的に参加」が最も高いのは学校の教職員(68.4%)、次いでその他(60.0%)、農林漁業者(58.3%)、無職(54.9%)、パート・臨時職員(46.4%)の順である。逆にフリーター、学生、その他専門職・自由業は極めて低い。「b. 職場や地域の参加割り当て(動員)などで仕方なく参加」はフリーター(100%)が最も高く、次いでその他専門職・自由業(83.3%)が極めて高くなっている。

図71

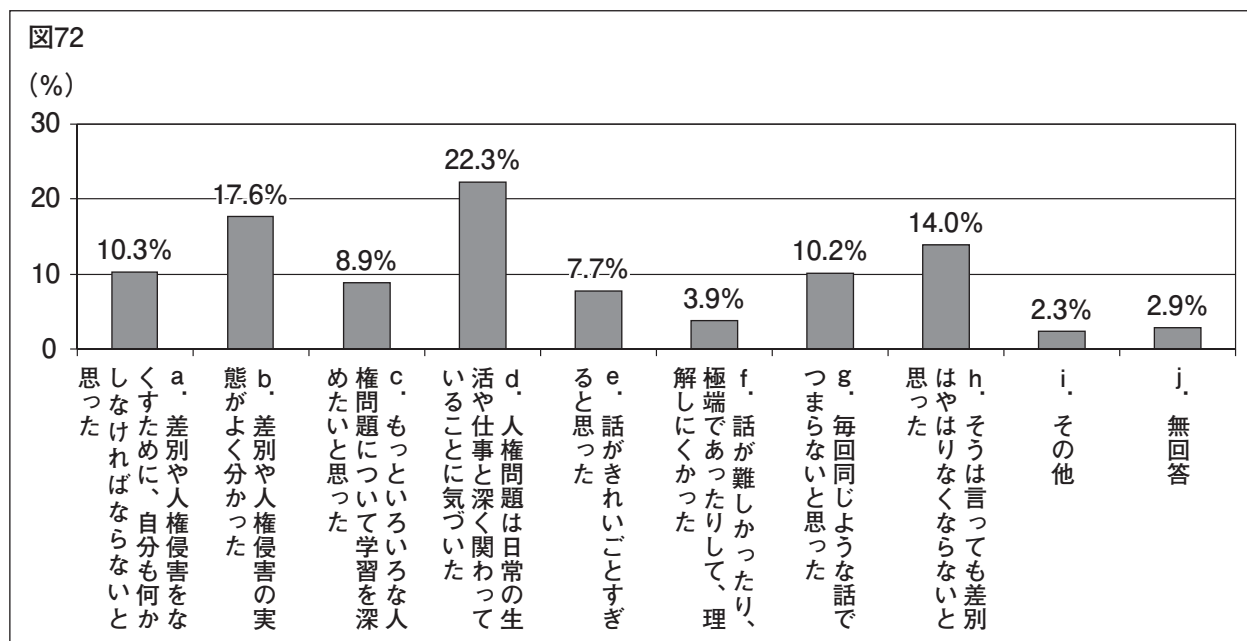


質問8-④ 質問8-①で1~3を選択された方にお聞きします。人権問題に関する学習会や講演会、研修会に参加されてどのような感想を持たれましたか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。  
(○は3つ以内)

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| 1 | 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった |
| 2 | 差別や人権侵害の実態がよく分かった               |
| 3 | もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った     |
| 4 | 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた   |
| 5 | 話がきれいごとすぎると思った                  |
| 6 | 話が難しかったり、極端であったりして、理解しにくかった     |
| 7 | 毎回同じような話でつまらないと思った              |
| 8 | そうは言っても差別はやはりなくならないと思った         |
| 9 | その他 ( )                         |

〈分析〉

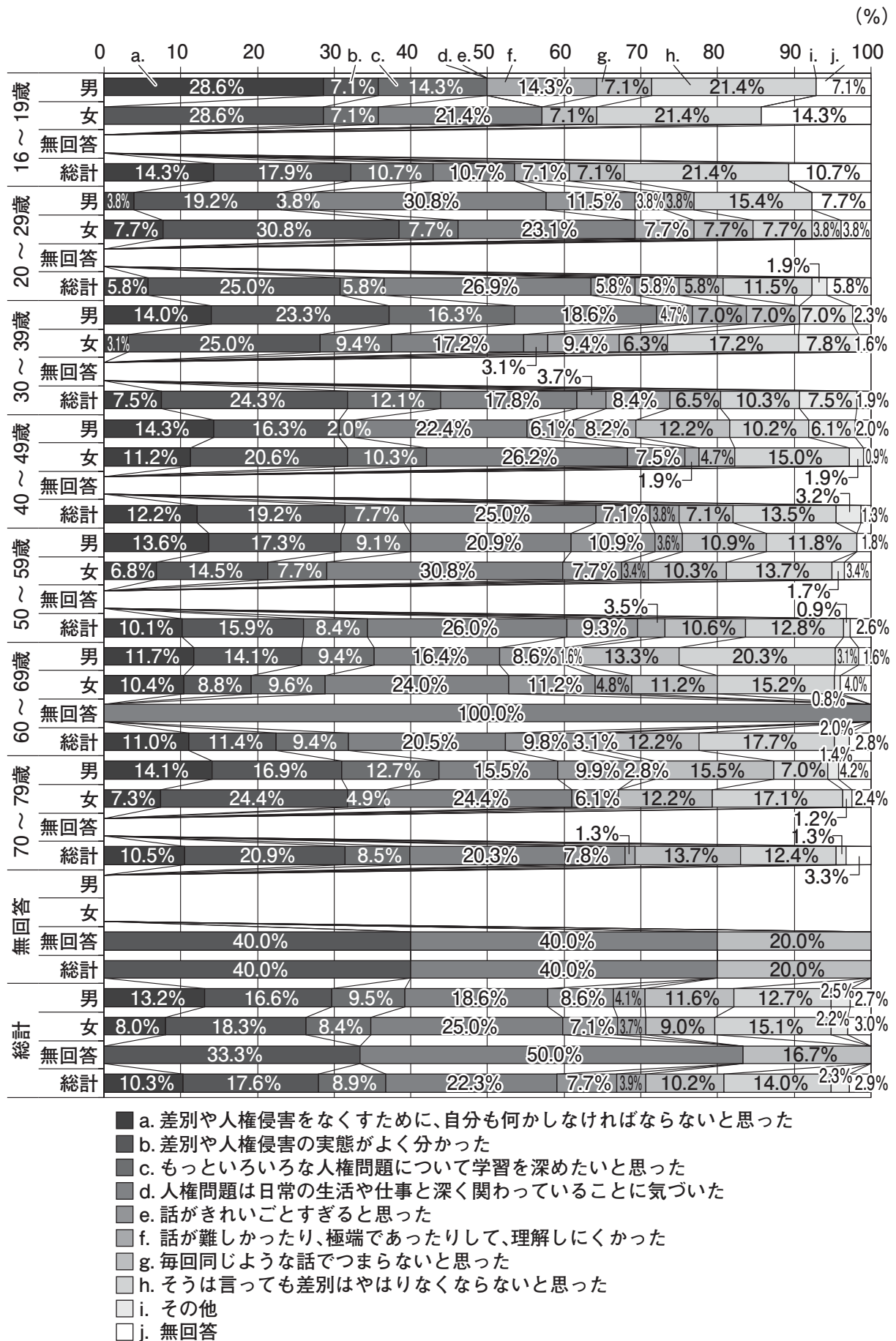
○ 「d. 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」(22.3%)が最も高く、次いで、「b. 差別や人権侵害の実態がよく分かった」(17.6%)、「a. 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった」(10.3%)などの肯定的、積極的な回答は約59%である。一方、「h. そうはいつでも差別はやはりなくならないと思った」(14.0%)、「g. 毎回同じような話しでつまらないと思った」(10.2%)など、否定的、消極的な回答は約36%である。[図72]



○ **性別**[図73]でみると、「d. 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」は男女とも最も高いが、女性(25.0%)は男性(18.6%)より6.4ポイント高い。一方、「a. 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった」は男性(13.2%)が女性(8.0%)より5.2ポイント高い。全回答項目数(複数回答)のなかで、肯定的、積極的な回答と否定的、消極的な回答の男女差はない。

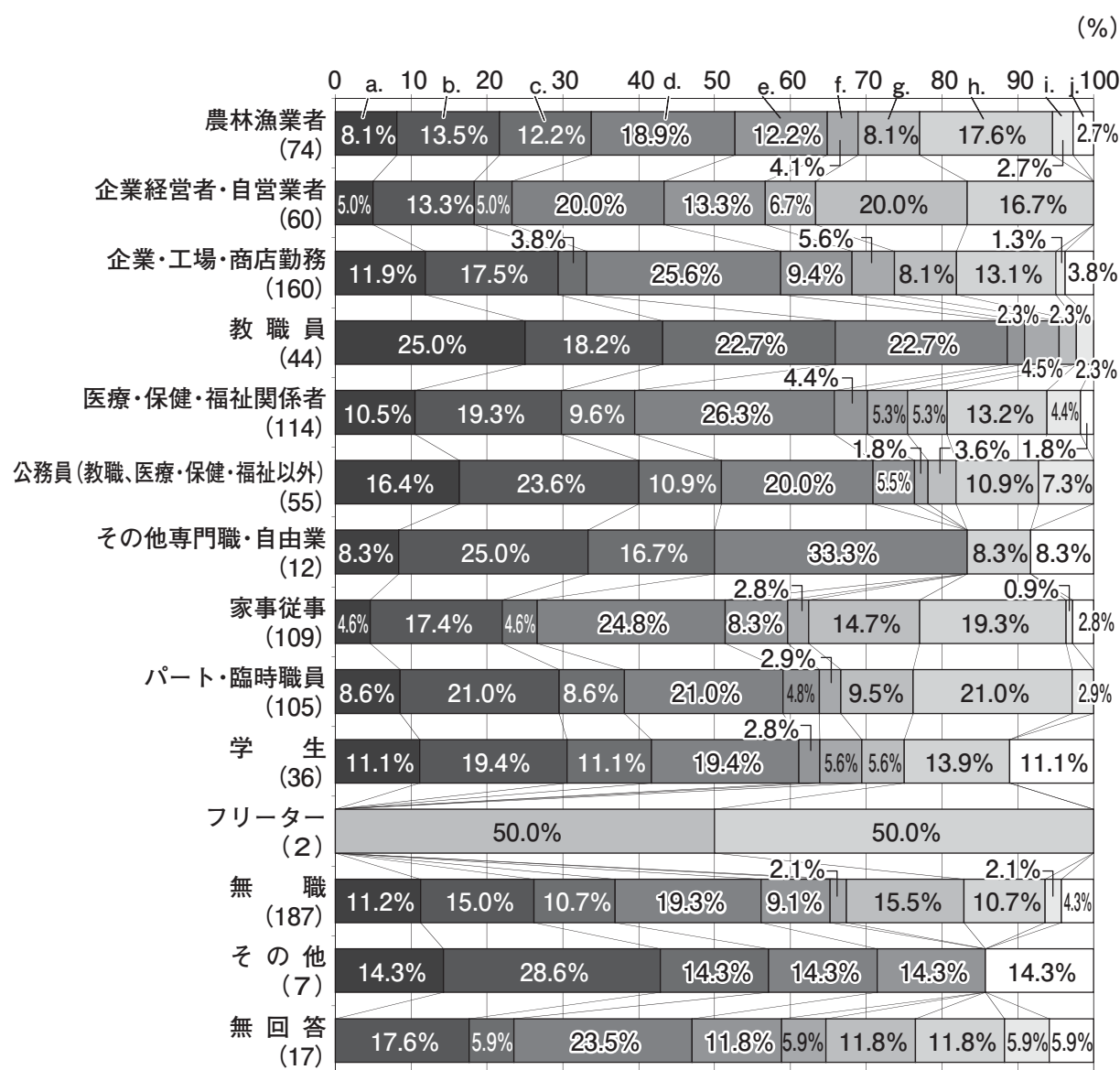
○ **年齢階層別**[図73]でみると、「d. 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた」、「b. 差別や人権侵害の実態がよく分かった」など肯定的、積極的な回答は20~29歳から50~59歳、そして70~79歳は6割以上と高い。しかし、60~69歳は52.3%と最も低く、否定的、消極的な回答の割合が42.8%と最も高い。次いで16~19歳(35.6%)が高く、「h. そうはいつでも差別はやはりなくならないと思った」は16~19歳(21.4%)が最も高くなっている。しかし、16~19歳は肯定的、積極的な回答のうち「a. 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった」、「c. もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った」とするより積極的な回答が25%と各年代層で最も高い。

図73



○ **職業別**[図 74]でみると、肯定的、積極的な回答は学校の教職員(88.6%)が約9割と最も高く、次いでその他専門職・自由業(83.3%)である。特に、学校の教職員の「a. 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった」(25.0%)、また「c. もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った」(22.7%)とするより積極的な回答はいずれも最も高い割合である。一方、否定的、消極的な回答はフリーター(100%)、そして企業経営者・自営業者(56.7%)の割合が高い。否定的、消極的な回答では「h. そうは言っても差別はやはりなくならないと思った」はフリーター(50.0%)、次いでパート・臨時職員(21.0%)、主として家事に従事(19.3%)の順に高く、「g. 毎回同じような話でつまらないと思った」はフリーター(50.0%)、企業経営者・自営業者(20.0%)が高い。

図74



- a. 差別や人権侵害をなくすために、自分も何かしなければならなかった
- b. 差別や人権侵害の実態がよく分かった
- c. もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った
- d. 人権問題は日常の生活や仕事と深く関わっていることに気づいた
- e. 話がきれいごとすぎると思った
- f. 話が難しかったり、極端であったりして、理解しにくかった
- g. 毎回同じような話でつまらないと思った
- h. そうは言っても差別はやはりなくならないと思った
- i. その他
- j. 無回答

【質問8-①（研修会等への参加）と質問8-④（研修会等の感想）との関連】 [表9][図75]

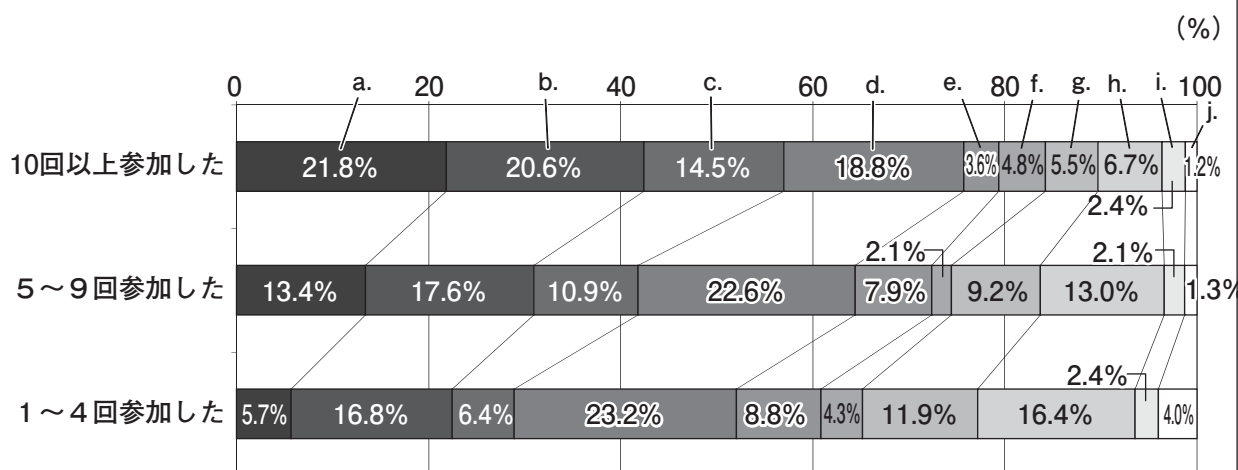
研修会等の感想と、研修会等の参加回数の違いによる意識や考え方の変容をみた。

○ 研修会等への参加回数が増えるにつれて、「a. 差別や人権侵害をなくするために、自分も何かしなければならなかった」、「c. もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った」とする肯定的、より積極的な感想が約23.3ポイント高くなっている。一方、「h. そうは言っても差別はやはりなくならないと思った」、「g. 毎回同じような話でつまらないと思った」など、否定的、消極的な感想の割合は低くなっている。

[表9]

| 選択項目      |     | a. 差別や人権侵害をなくするために、自分も何かしなければならなかった | b. 差別や人権侵害の実態がよく分かった | c. もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った | d. 人権問題は日常生活や仕事と深く関わっていることに気づいた | e. 話がきれいごとすぎると思った | f. 話が難しかったり、極端であったりして、理解しにくかった | g. 毎回同じような話でつまらないと思った | h. そうは言っても差別はやはりなくならないと思った | i. その他 | j. 無回答 | 合計     |
|-----------|-----|-------------------------------------|----------------------|--------------------------------|---------------------------------|-------------------|--------------------------------|-----------------------|----------------------------|--------|--------|--------|
|           |     | 総計                                  | 人数                   | 101                            | 173                             | 87                | 219                            | 76                    | 38                         | 100    | 137    | 23     |
|           | 構成比 | 10.3%                               | 17.6%                | 8.9%                           | 22.3%                           | 7.7%              | 3.9%                           | 10.2%                 | 14.0%                      | 2.3%   | 2.9%   | 100.0% |
| 10回以上参加した | 人数  | 36                                  | 34                   | 24                             | 31                              | 6                 | 8                              | 9                     | 11                         | 4      | 2      | 165    |
|           | 構成比 | 21.8%                               | 20.6%                | 14.5%                          | 18.8%                           | 3.6%              | 4.8%                           | 5.5%                  | 6.7%                       | 2.4%   | 1.2%   | 100.0% |
| 5～9回参加した  | 人数  | 32                                  | 42                   | 26                             | 54                              | 19                | 5                              | 22                    | 31                         | 5      | 3      | 239    |
|           | 構成比 | 13.4%                               | 17.6%                | 10.9%                          | 22.6%                           | 7.9%              | 2.1%                           | 9.2%                  | 13.0%                      | 2.1%   | 1.3%   | 100.0% |
| 1～4回参加した  | 人数  | 33                                  | 97                   | 37                             | 134                             | 51                | 25                             | 69                    | 95                         | 14     | 23     | 578    |
|           | 構成比 | 5.7%                                | 16.8%                | 6.4%                           | 23.2%                           | 8.8%              | 4.3%                           | 11.9%                 | 16.4%                      | 2.4%   | 4.0%   | 100.0% |

図75



- a. 差別や人権侵害をなくするために、自分も何かしなければならなかった
- b. 差別や人権侵害の実態がよく分かった
- c. もっといろいろな人権問題について学習を深めたいと思った
- d. 人権問題は日常生活や仕事と深く関わっていることに気づいた
- e. 話がきれいごとすぎると思った
- f. 話が難しかったり、極端であったりして、理解しにくかった
- g. 毎回同じような話でつまらないと思った
- h. そうは言っても差別はやはりなくならないと思った
- i. その他
- j. 無回答

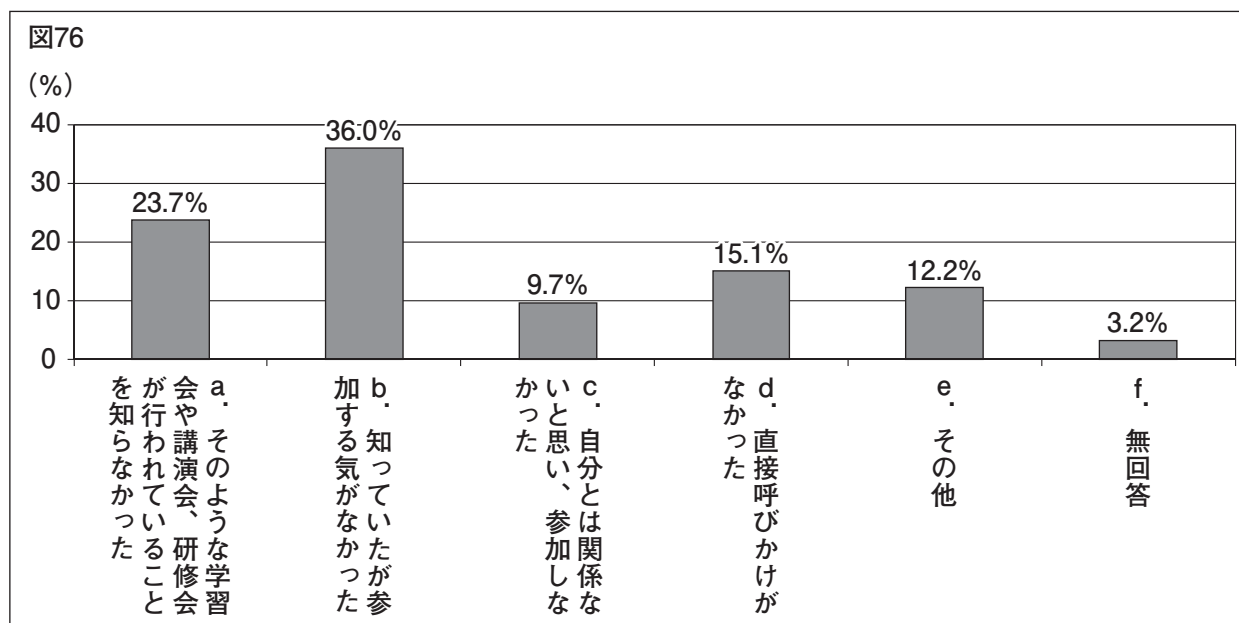


質問8-⑤ 質問8-①で「4 参加したことがない」と回答された方にお聞きします。参加されなかったのはなぜですか。あてはまるもの一つに○をつけてください。

- |   |                                  |
|---|----------------------------------|
| 1 | そのような学習会や講演会、研修会が行われていることを知らなかった |
| 3 | 知っていたが参加する気がなかった                 |
| 4 | 自分とは関係ないと思い、参加しなかった              |
| 5 | 直接呼びかけがなかった                      |
| 6 | その他 ( )                          |

〈分析〉

○ 研修会等に参加しなかった理由は、「b. 知っていたが参加する気がなかった」(36.0%)が最も高い。次いで「a. そのような学習会や講演会、研修会が行われていることを知らなかった」(23.7%)、「d. 直接呼びかけがなかった」(15.1%)の順になっている。[図76]

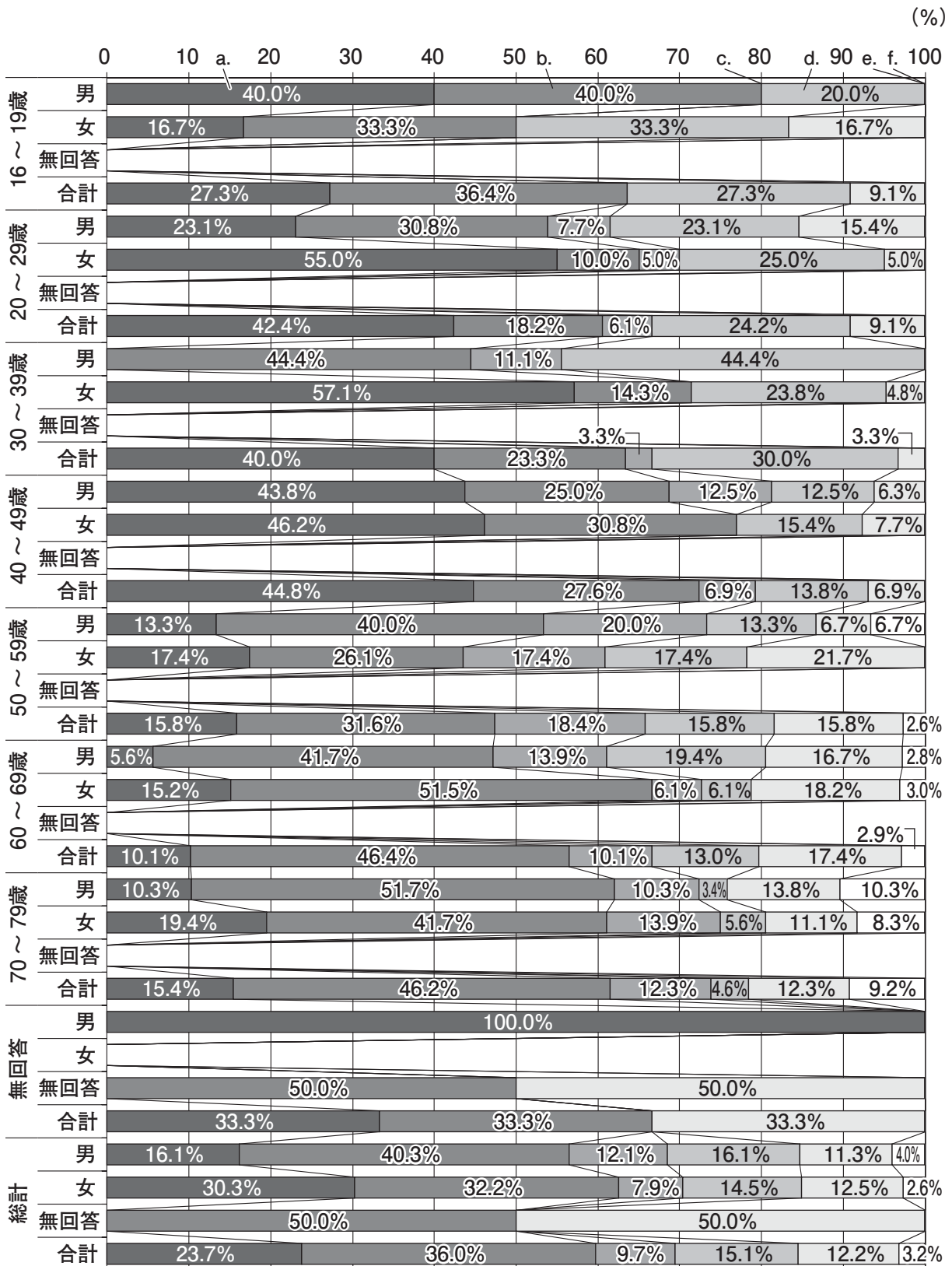


○ **性別**[図77]で見ると、男性、女性とも「b. 知っていたが参加する気がなかった」男性(40.3%)、女性(32.2%)が最も高くなっている。

○ **年齢階層別**[図77]にみると、20～49歳は「a. そのような学習会や講演会、研修会が行われていることを知らなかった」が4割以上と高くなっており、16～19歳、50～59歳以上は「b. 知っていたが参加する気がなかった」が高くなっている。また、30～39歳以下の若い年代は「d. 直接呼びかけがなかった」とする回答の割合も高い。



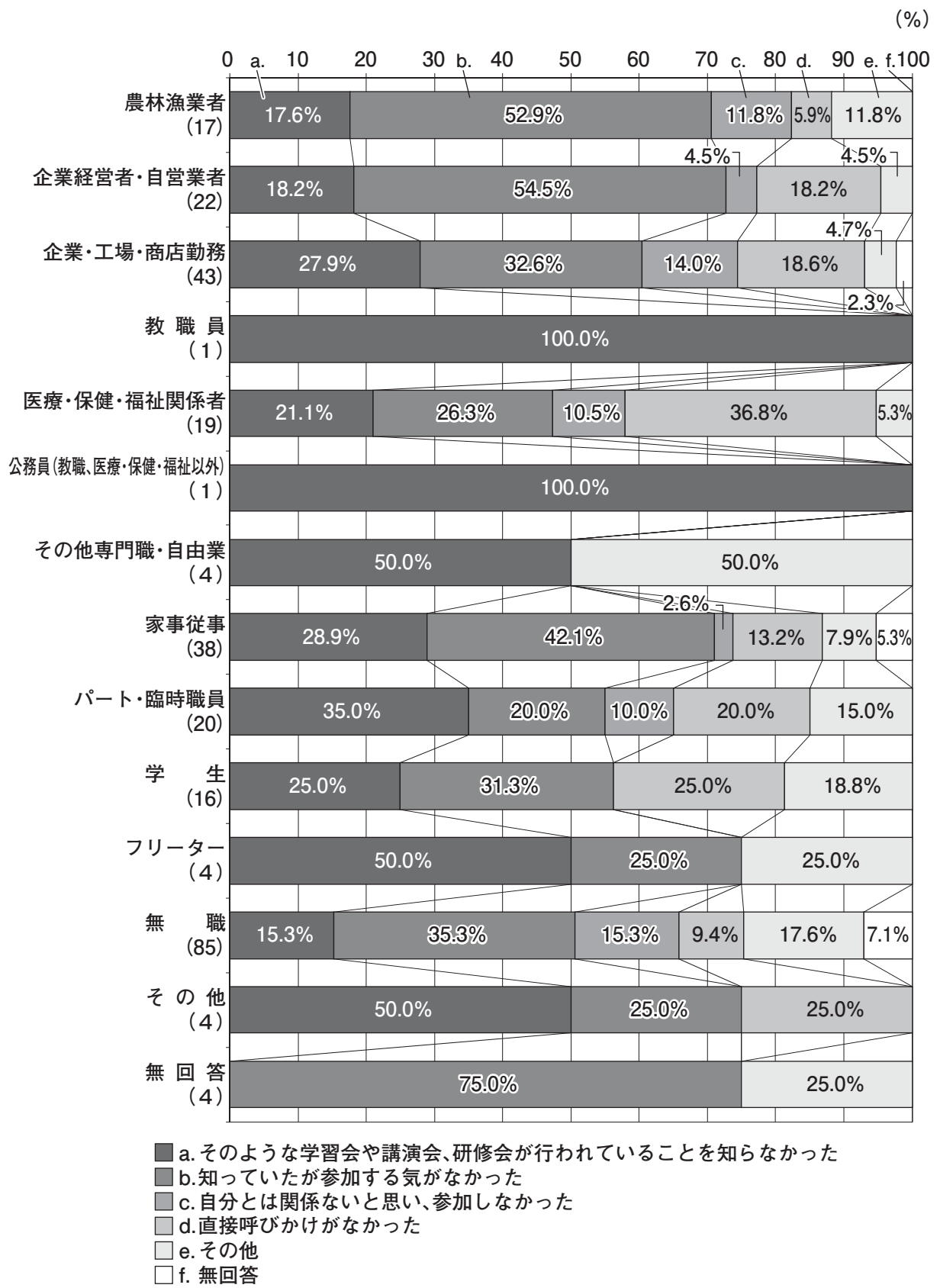
図77



- a. そのような学習会や講演会、研修会が行われていることを知らなかった
- b. 知っていたが参加する気がなかった
- c. 自分とは関係ないと思い、参加しなかった
- d. 直接呼びかけがなかった
- e. その他
- f. 無回答

○ 職業別[図78]で見ると、「b.知っていたが参加する気がなかった」で5割を超えているのは、企業経営者・自営業者(54.5%)、農林漁業者(52.9%)である。主として家事に従事(42.1%)も高い。「a.そのような学習会や講演会、研修会が行われていることを知らなかった」は、回答者数が極めて少数であるが、学校の教職員、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員、フリーター、その他の割合が高い。

図78



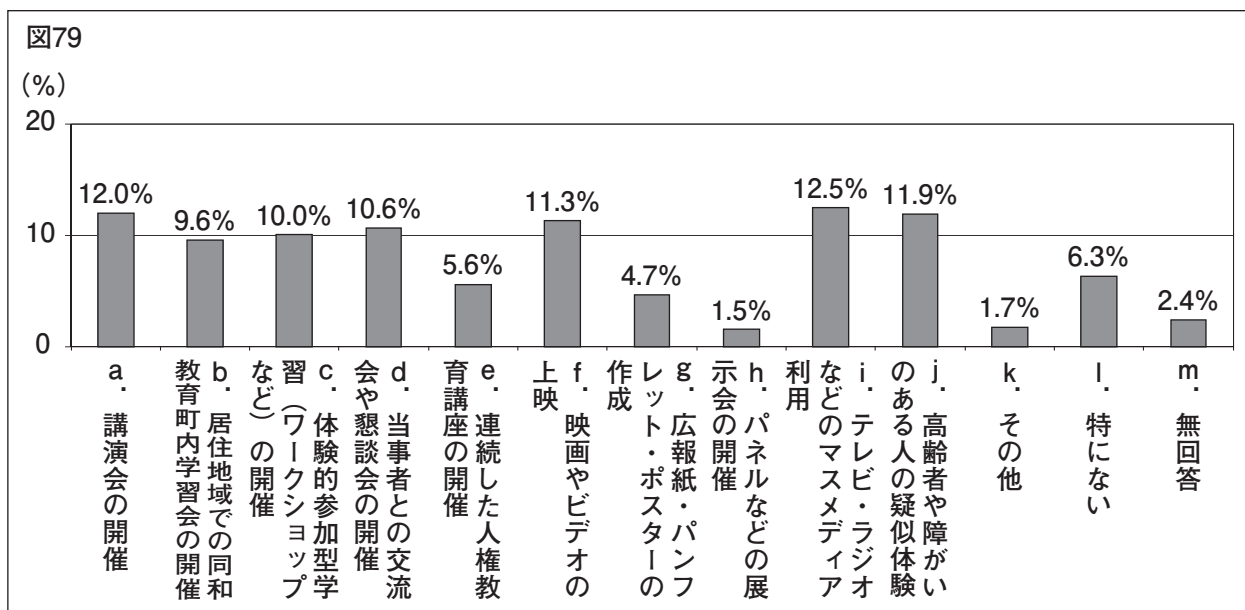
## 学習方法や啓発活動について

質問9 同和問題をはじめさまざまな人権問題について理解を深めるために、あなたはどのような学習方法や啓発活動が重要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 講演会の開催
- 2 居住地での同和教育町内学習会の開催
- 3 体験的参加型学習（ワークショップなど）の開催
- 4 当事者との交流会や懇談会の開催
- 5 連続した人権教育講座の開催
- 6 映画やビデオの上映
- 7 広報紙・パンフレット・ポスターの作成
- 8 パネルなどの展示会の開催
- 9 テレビ・ラジオなどのマスメディア利用
- 10 高齢者や障がいのある人の疑似体験
- 11 その他（ ）
- 12 特にない

### 〈分析〉

○ 人権問題について理解を深めるために重要な学習方法や啓発活動は、「i. テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」(12.5%)、「a. 講演会の開催」(12.0%)、「j. 高齢者や障がいの疑似体験」(11.9%)、「f. 映画やビデオの上映」(11.3%)などが高い。[図 79]

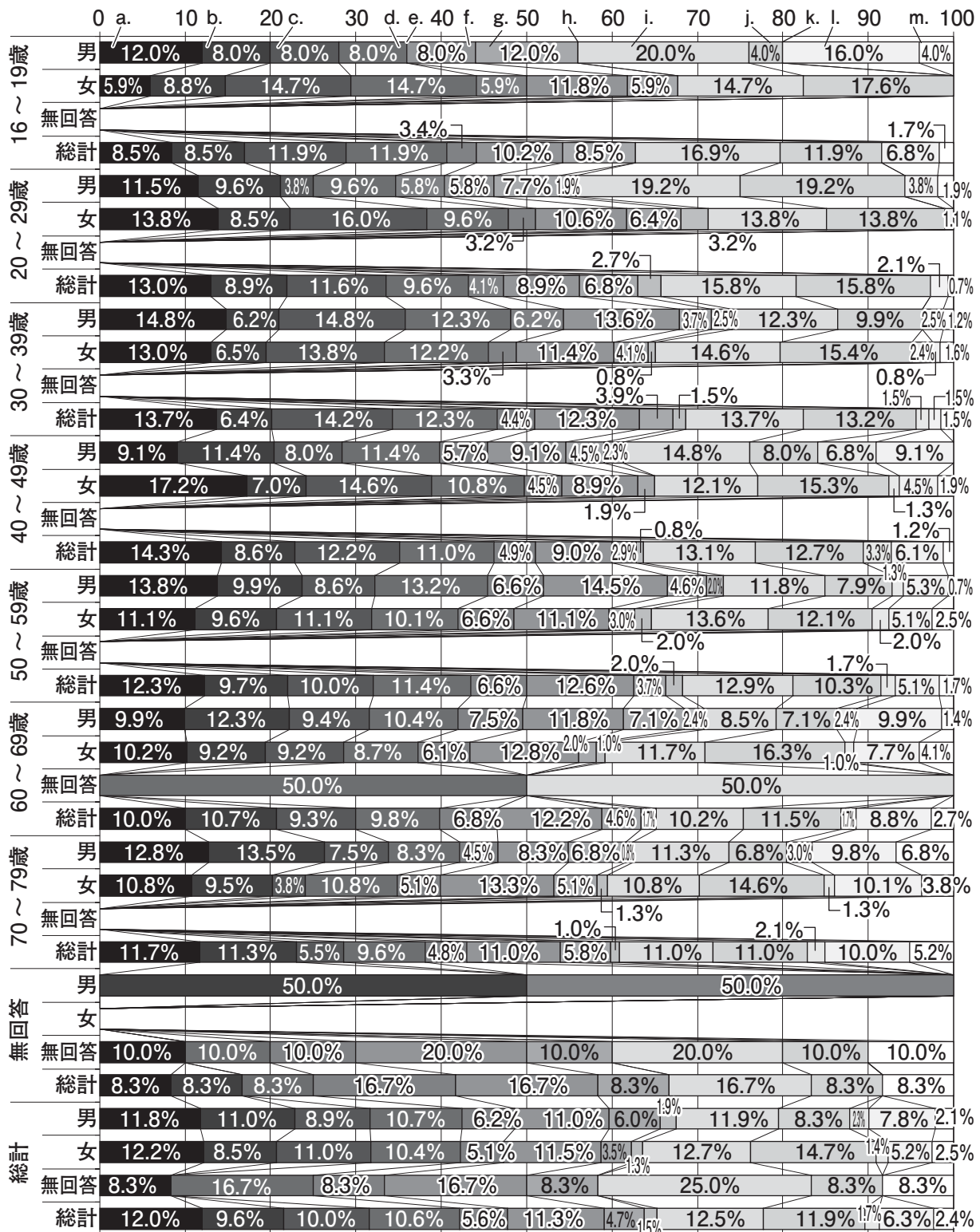


○ **性別**[図 80]でみると、男性は「i. テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」(11.9%)、次いで「a. 講演会の開催」(11.8%)が高い。女性は「j. 高齢者や障がいの疑似体験」(14.7%)が最も高く、男性(8.3%)に比べ6.4ポイント高くなっている。次いで「i. テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」(12.7%)、「a. 講演会の開催」(12.2%)などとなっている。

○ **年齢階層別**[図 80]にみると、「i. テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」は16～19歳(16.9%)、20～29歳(15.8%)が高く、年代が上がるにつれて低くなる傾向にある。「a. 講演会の開催」は16～19歳以外の年齢層では大きな差はない。「j. 高齢者や障がいの疑似体験」は20～29歳(15.8%)が最も高く、50～59歳(10.3%)が最も低くなっている。「f. 映画やビデオの上映」は50～59歳以上の年代で高く、「c. 体験的参加型学習（ワークショップなど）の開催」は30～39歳(14.3%)が最も高く、年代が上がるにしたがい僅かに減少している。

図80

(%)

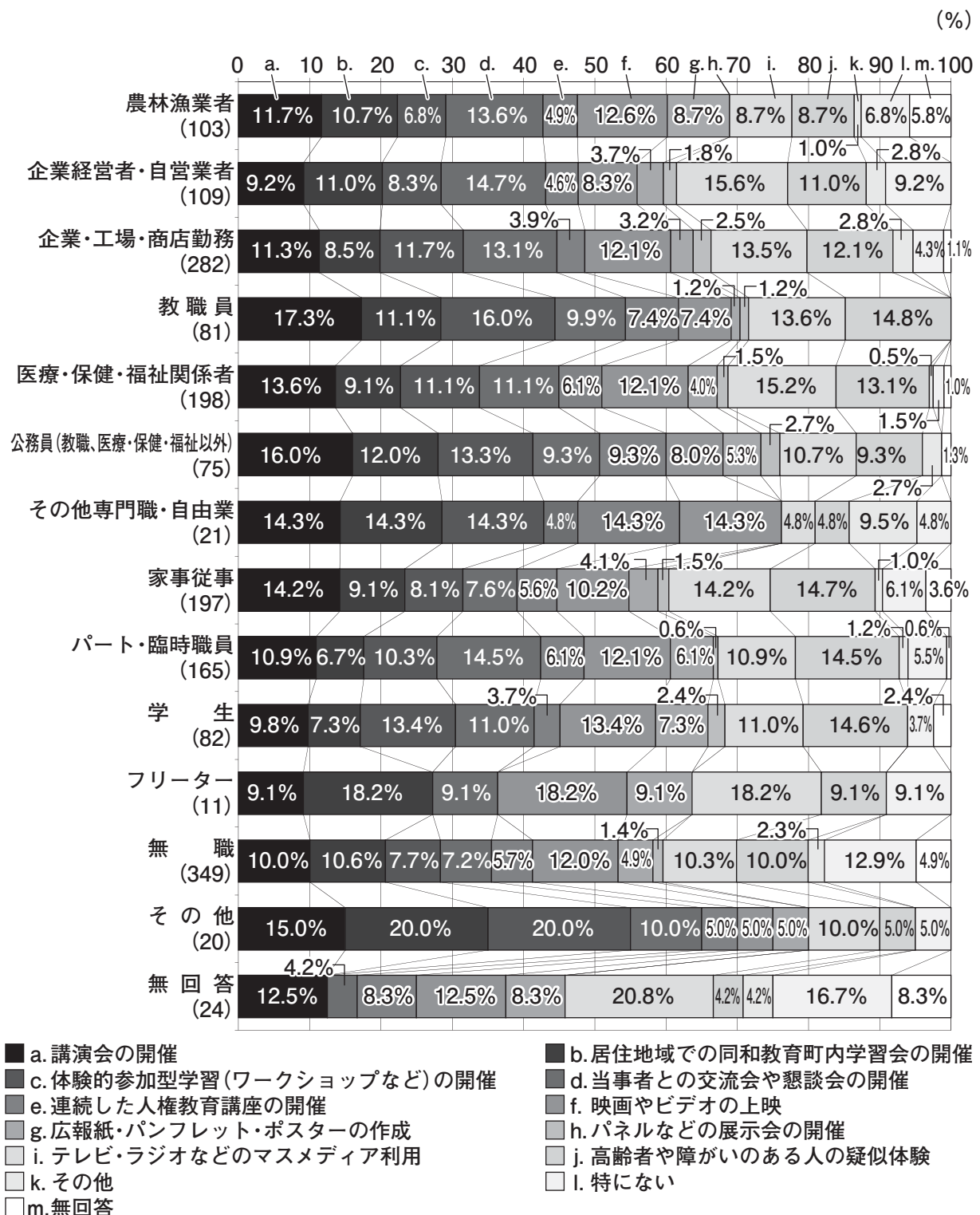


- a. 講演会の開催
- b. 居住地域での同和教育町内学習会の開催
- c. 体験的参加型学習(ワークショップなど)の開催
- d. 当事者との交流会や懇談会の開催
- e. 連続した人権教育講座の開催
- f. 映画やビデオの上映
- g. 広報紙・パンフレット・ポスターの作成
- h. パネルなどの展示会の開催
- i. テレビ・ラジオなどのマスメディア利用
- j. 高齢者や障がいのある人の疑似体験
- k. その他
- l. 特にない
- m. 無回答



○ 職業別[図81]にみると、「i. テレビ・ラジオなどのマスメディア利用」は企業経営者・自営業者、民間企業や工場、商店に勤める人、医療・保健・福祉関係者、フリーターが高くなっている。「a. 講演会の開催」は学校の教職員、学校、医療・保健・福祉関係者以外の公務員、その他専門職・自由業で最も高くなっている。「j. 高齢者や障がい者の疑似体験」は主として家事に従事、パート・臨時職員、学生で最も高くなっている。「f. 映画やビデオの上映」はフリーター、無職、その他専門職・自由業で高い。「d. 当事者との交流会や懇談会の開催」は企業経営者・自営業者、パート・臨時職員で高い。「c. 体験的参加型学習(ワークショップなど)の開催」はその他(20.0%)、学校の教職員(16.0%)、その他専門職・自由業(14.3%)、学生(13.4%)、医療・保健・福祉関係者以外の公務員(13.3%)が高い。

図81



**学習したい人権問題について**

質問10 同和問題をはじめさまざまな人権問題について理解を深めるため、あなたが学習したい人権問題について、あてはまるものに○をつけてください。

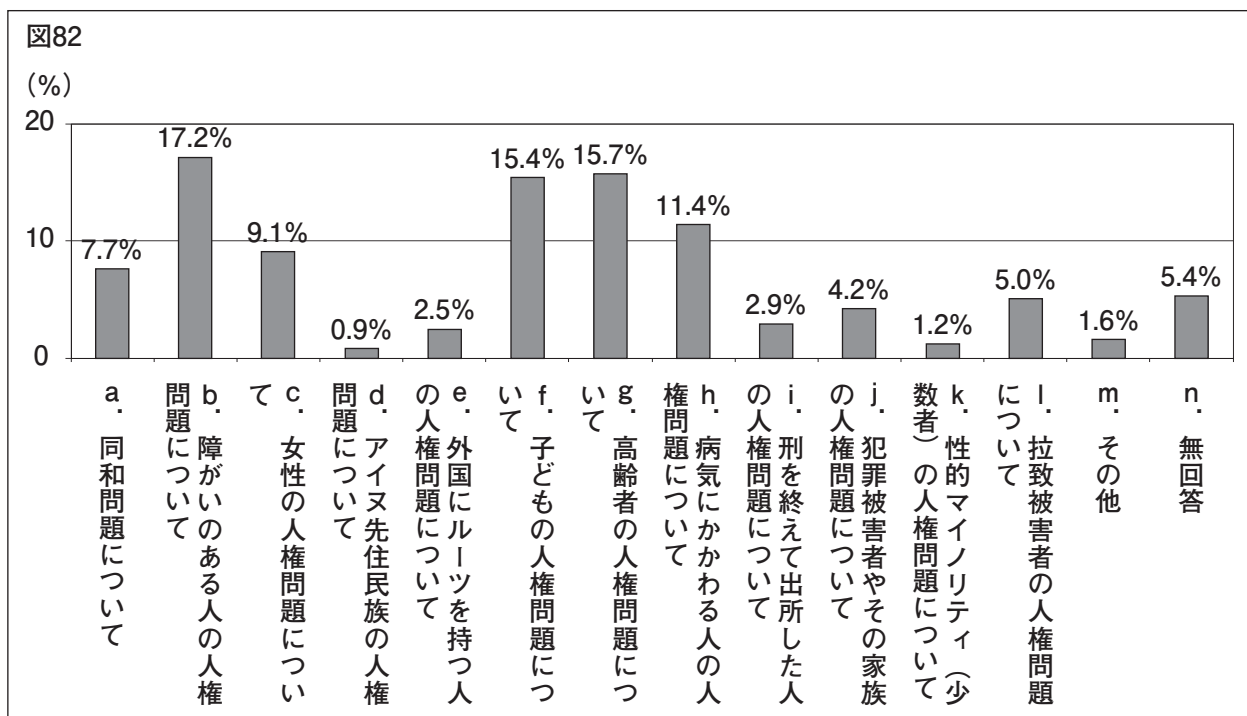
(○は3つ以内)

- |    |                        |
|----|------------------------|
| 1  | 同和問題について               |
| 2  | 障がいのある人の人権問題について       |
| 3  | 女性の人権問題について            |
| 4  | アイヌ先住民族の人権問題について       |
| 5  | 外国にルーツを持つ人の人権問題について    |
| 6  | 子どもの人権問題について           |
| 7  | 高齢者の人権問題について           |
| 8  | 病気にかかわる人の人権問題について      |
| 9  | 刑を終えて出所した人の人権問題について    |
| 10 | 犯罪被害者やその家族の人権問題について    |
| 11 | 性的マイノリティ（少数者）の人権問題について |
| 12 | 拉致（らち）被害者の人権問題について     |
| 13 | その他（ ）                 |

(人権問題は「第4次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画」の施策を参考に分類しています)

**〈分析〉**

○ 学習したい人権問題については、「b. 障がいのある人の人権問題」(17.2%)が最も高く、次いで「g. 高齢者の人権問題」(15.7%)、「f. 子どもの人権問題」(15.4%)、そして「h. 病気にかかわる人の人権問題」(11.4%)の順に高くなっている。[図82]

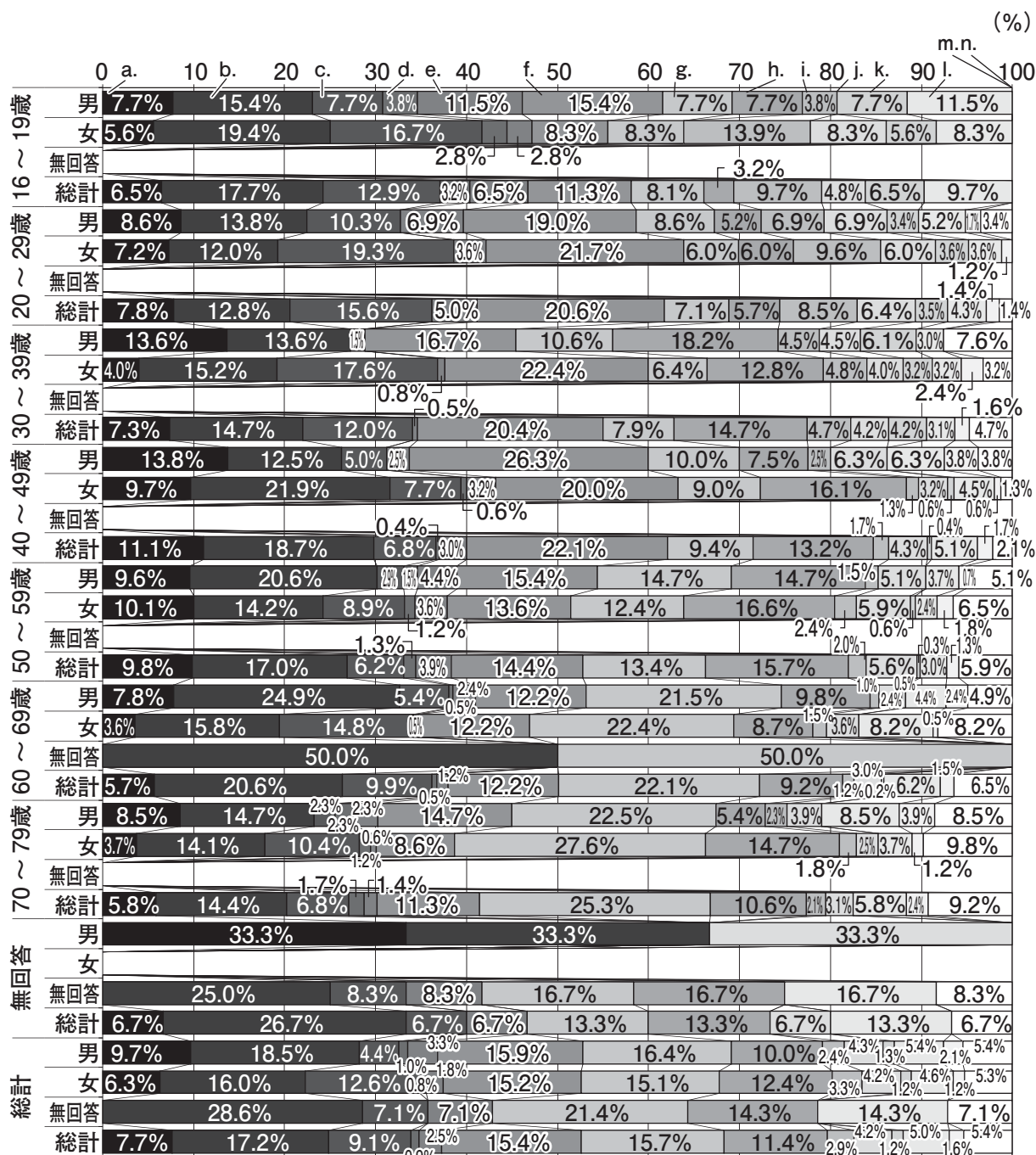


○ **性別**[図83]でみると、男女とも「b. 障がいのある人の人権問題」(男性18.5%、女性16.0%)が最も高い。次いで、男性は「g. 高齢者の人権問題」(16.4%)、「f. 子どもの人権問題」(15.9%)、「h. 病気にかかわる人の人権問題」(10.0%)、そして「a. 同和問題」(9.7%)の順に高い。一方、女性は「f. 子どもの人権問題」(15.2%)、「g. 高齢者の人権問題」(15.1%)、「c. 女性の人権問題」(12.6%)、そして「h. 病気にかかわる人の人権問題」(12.4%)の順に高い。



- 年齢階層別[図83]にみると、16～19歳は「b. 障がいのある人の人権問題」(17.7%)が最も高く、次いで「c. 女性の人権問題」(12.9%)が高い。20～29歳から40～49歳では「f. 子どもの人権問題」が20%以上と最も高い。次いで20～29歳は「c. 女性の人権問題」(15.6%)、30～39歳及び40～49歳は「b. 障がいのある人の人権問題」が高くなっている。50～59歳は「b. 障がいのある人の人権問題」(17.0%)が最も高い。「g. 高齢者の人権問題」は60～69歳(22.1%)、70～79歳(25.3%)が最も高くなり、また「b. 障がいのある人の人権問題」の割合も高く60～69歳は各年齢層のなかで20.6%と最も高い。

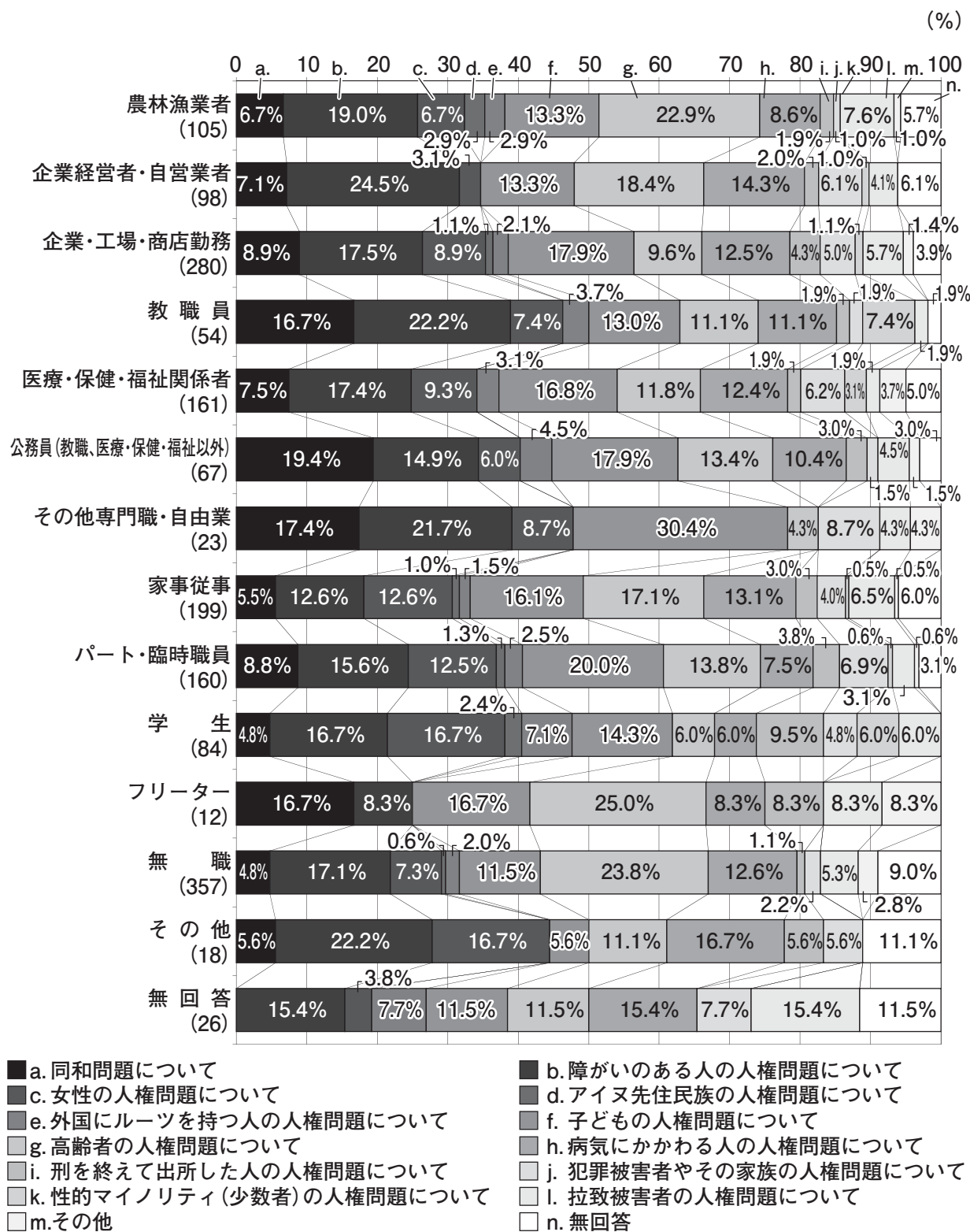
図83



- a. 同和問題について
- b. 障がいのある人の人権問題について
- c. 女性の人権問題について
- d. アイヌ先住民族の人権問題について
- e. 外国にルーツを持つ人の人権問題について
- f. 子どもの人権問題について
- g. 高齢者の人権問題について
- h. 病気にかかわる人の人権問題について
- i. 刑を終えて出所した人の人権問題について
- j. 犯罪被害者やその家族の人権問題について
- k. 性的マイノリティ(少数者)の人権問題について
- l. 拉致被害者の人権問題について
- m. その他
- n. 無回答

○ 職業別[図84]にみると、「b. 障がいのある人の人権問題」は企業経営者・自営業者(24.5%)、学校の教職員(22.2%)、医療・保健・福祉関係者(17.4%)、学生(16.7%)が高い割合である。「g. 高齢者の人権問題」はフリーター(25.0%)、無職(23.8%)、農林漁業者(22.9%)、主として家事に従事(17.1%)の順に高い割合になっている。「f. 子どもの人権問題」はその他専門職・自由業(30.4%)、パート・臨時職員(20.0%)、民間企業や工場、商店に勤める人(17.9%)が最も高い割合である。「a. 同和問題」は医療・保健・福祉関係者以外の公務員(19.4%)が最も高く、次いでその他専門職・自由業(17.4%)、学校の教職員(16.7%)、フリーター(16.7%)の順になっている。

図84



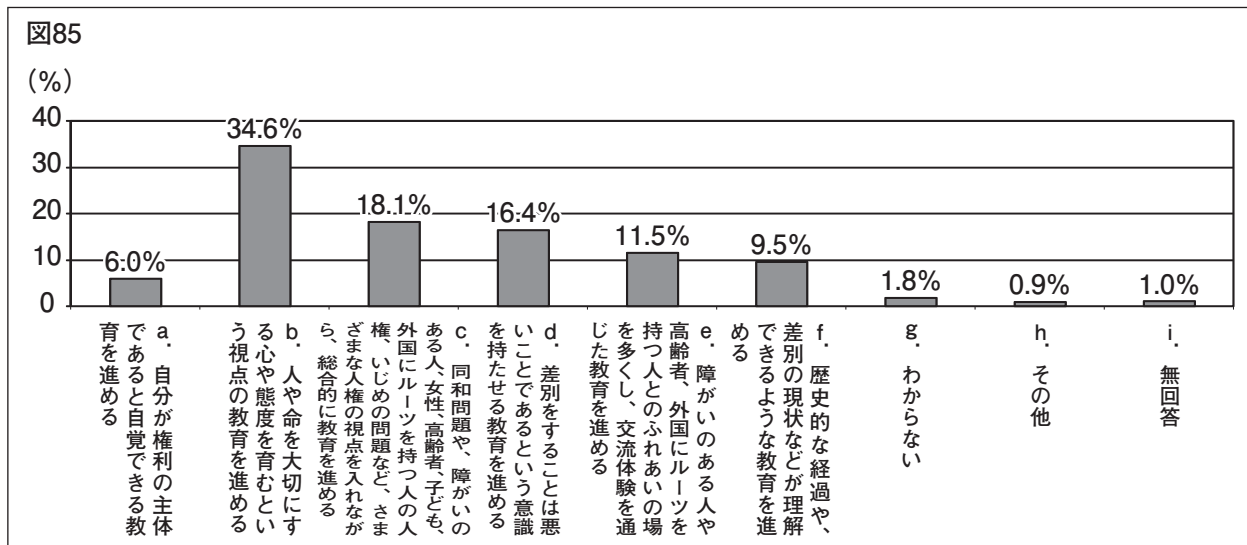
## 学校教育について

質問11 人権を尊重する心や態度を育むために、学校教育においてどのような教育を行ったらよいと思いますか。あなたの経験や現在の子どもをとりまく状況などから判断してあなたの考えに近いものに○をしてください。(○は3つ以内)

- 1 自分が権利の主体であると自覚できる教育を進める
- 2 人や命を大切にすること心や態度を育むという視点の教育を進める
- 3 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める
- 4 差別をすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める
- 5 障がいのある人や高齢者、外国にルーツを持つ人とのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める
- 6 歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める
- 7 わからない
- 8 その他 ( )

### 〈分析〉

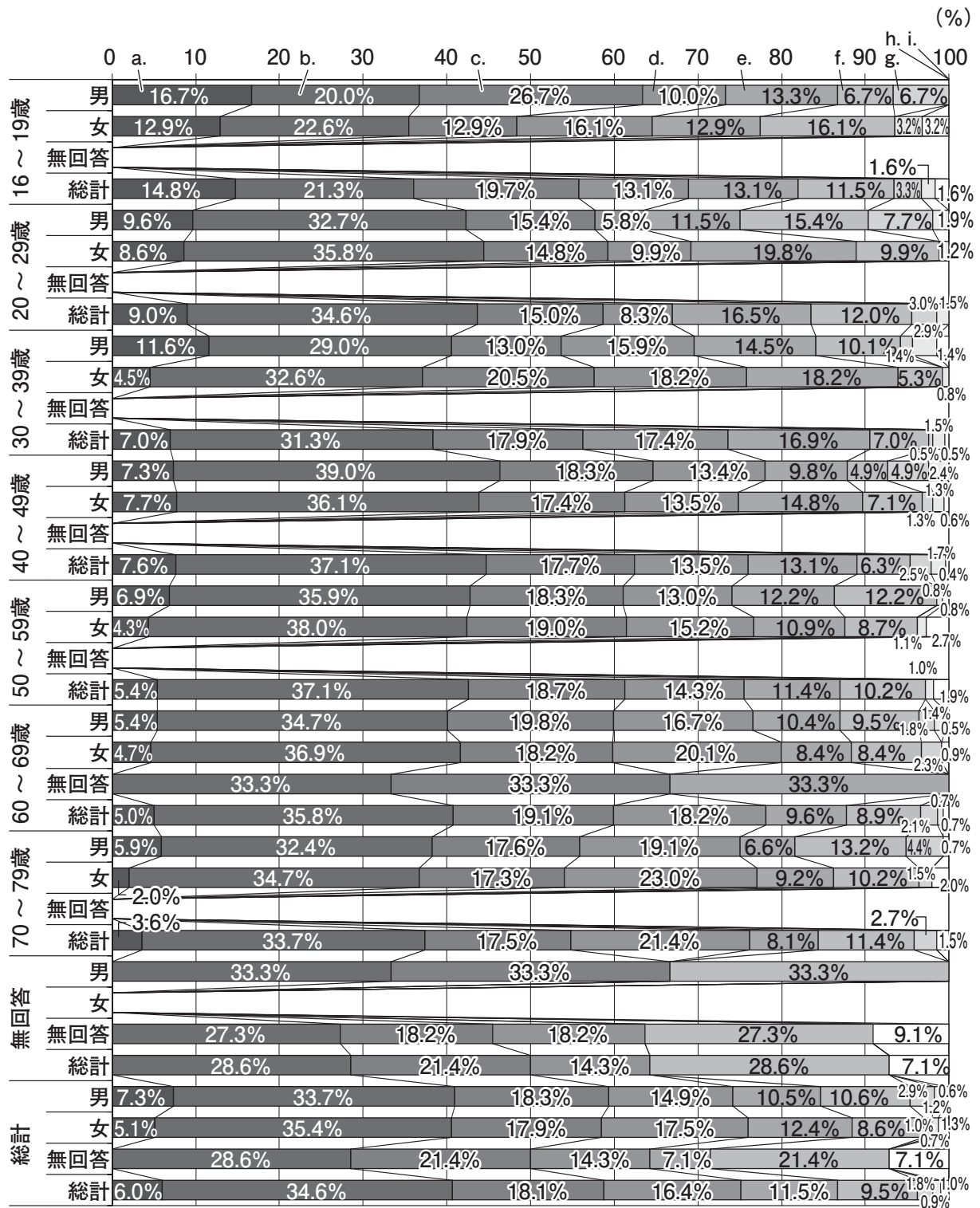
○ 人権を尊重する心や態度を育むために必要な学校教育について、「b. 人や命を大切にすること心や態度を育むという視点の教育を進める」(34.6%)が最も高い。次いで「c. 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める」(18.1%)、「d. 差別をすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」(16.4%)などとなっている。[図85]



○ 性別[図86]でも、男女ともに「b. 人や命を大切にすること心や態度を育むという視点の教育を進める」(男性33.7%、女性35.4%)が最も高い。次いで「c. 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める」(男性18.3%、女性17.9%)となっている。

○ 年齢階層別[図86]で見ると、「b. 人や命を大切にすること心や態度を育むという視点の教育を進める」はすべての年代層で最も高く、40～49歳から60～69歳では35%を超えている。次いで、20～29歳以外は「c. 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める」が高くなっている。20～29歳では2番目に「e. 障がいのある人や高齢者、外国にルーツを持つ人とのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」が高いが、この回答は「a. 自分が権利の主体であると自覚できる教育を進める」とする回答と同様に年代が高くなるにしたがい割合が低くなっている。

図86

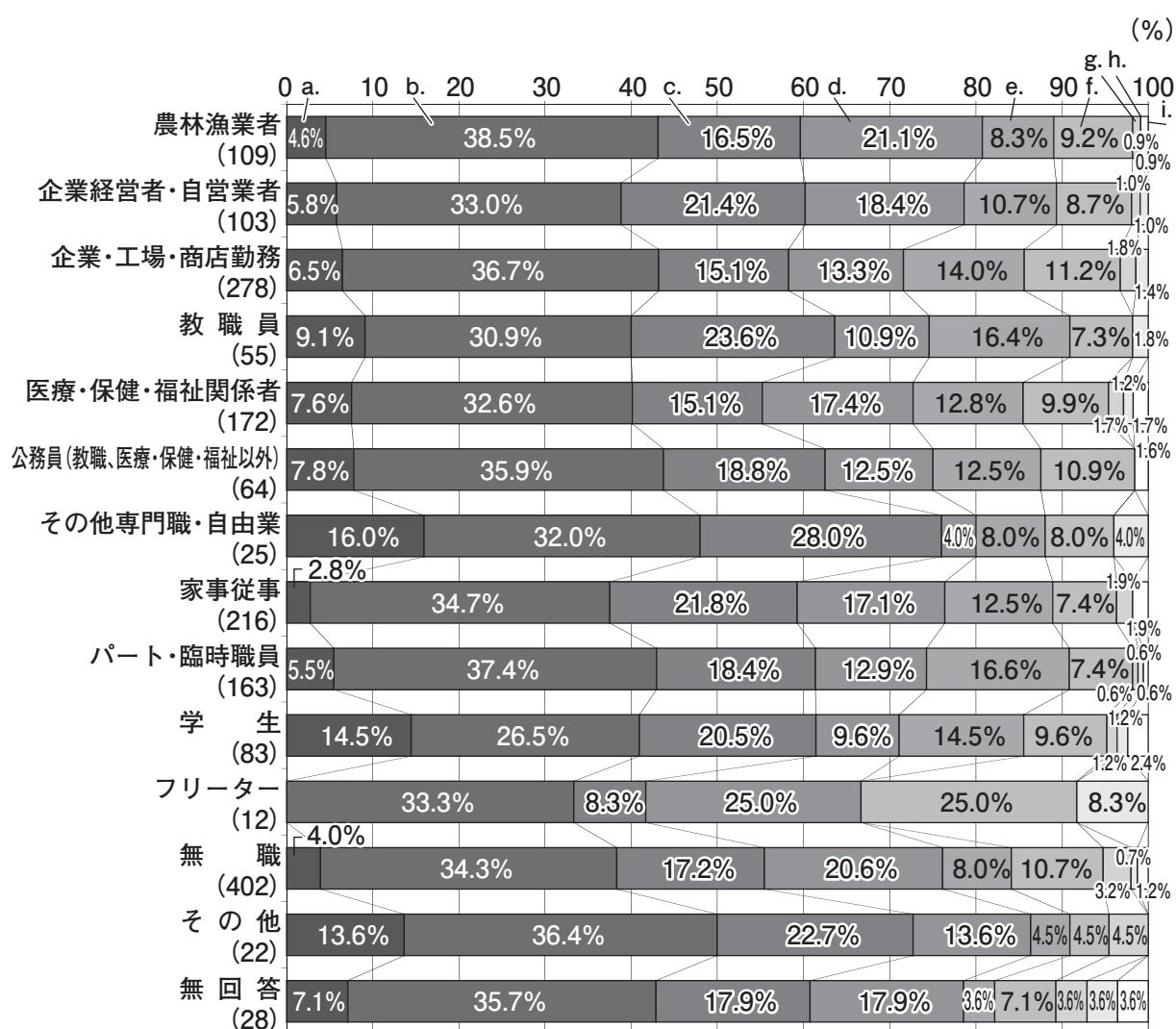


- a. 自分が権利の主体であると自覚できる教育を進める
- b. 人や命を大切にする心や態度を育むという視点の教育を進める
- c. 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める
- d. 差別をすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める
- e. 障がいのある人や高齢者、外国にルーツを持つ人とのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める
- f. 歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める
- g. わからない
- h. その他
- i. 無回答



- **職業別**[図87]にみると、すべての職種で「b. 人や命を大切にする心や態度を育むという視点の教育を進める」が最も高い。農林漁業者が38.5%と最も高く、パート・臨時職員(37.4%)、民間企業や工場、商店に勤める人(36.7%)が高い。「c. 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める」はその他専門職・自由業(28.0%)が最も高く、次いで学校の教職員(23.6%)、主として家事に従事(21.8%)、企業経営者・自営業者(21.4%)の順に高くなっている。「d. 差別をすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」はフリーター(25.0%)が最も高く、次いで農林漁業者(21.1%)、無職(20.6%)が高い。「e. 障がいのある人や高齢者、外国にルーツを持つ人とのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める」はパート・臨時職員(16.6%)が最も高く、学校の教職員(16.4%)、学生(14.5%)、民間企業や工場、商店に勤める人(14.0%)の順に高い。「a. 自分が権利の主体であると自覚できる教育を進める」はその他専門職・自由業(16.0%)、学生(14.5%)が高い。

図87



- a. 自分が権利の主体であると自覚できる教育を進める
- b. 人や命を大切にする心や態度を育むという視点の教育を進める
- c. 同和問題や、障がいのある人、女性、高齢者、子ども、外国にルーツを持つ人の人権、いじめの問題など、さまざまな人権の視点を入れながら、総合的に教育を進める
- d. 差別をすることは悪いことであるという意識を持たせる教育を進める
- e. 障がいのある人や高齢者、外国にルーツを持つ人とのふれあいの場を多くし、交流体験を通じた教育を進める
- f. 歴史的な経過や、差別の現状などが理解できるような教育を進める
- g. わからない
- h. その他
- i. 無回答

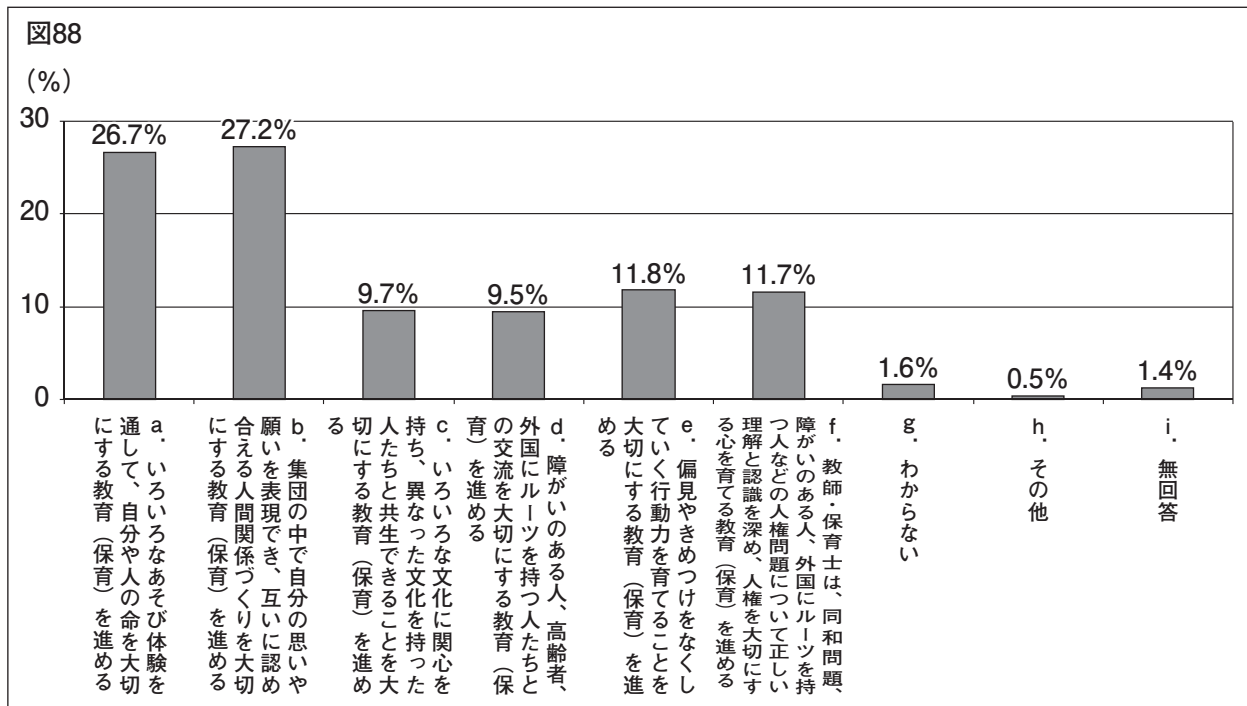
**幼稚園・保育園の教育について**

質問12 人権を大切にする心を育てるため、幼稚園・保育園においてどのような教育（保育）を行ったらよいと思いますか。あなたの体験や現在の子どもをとりまく状況などから判断してあなたの考えに近いものに○をしてください。（○は3つ以内）

- 1 いろいろなあそび体験を通して、自分や人の命を大切にする教育（保育）を進める
- 2 集団の中で自分の思いや願いを表現でき、互いに認め合える人間関係づくりを大切にする教育（保育）を進める
- 3 いろいろな文化に関心を持ち、異なった文化を持った人たちと共生できることを大切にする教育（保育）を進める
- 4 障がいのある人、高齢者、外国にルーツを持つ人たちとの交流を大切にする教育（保育）を進める
- 5 偏見やきめつけをなくしていく行動力を育てることを大切にする教育（保育）を進める
- 6 教師・保育士は、同和問題、障がいのある人、外国にルーツを持つ人などの人権問題について正しい理解と認識を深め、人権を大切にする心を育てる教育（保育）を進める
- 7 わからない
- 8 その他（ ）

**〈分析〉**

○ 人権を大切にする心を育てるために必要な幼稚園・保育園における教育(保育)については、「b. 集団の中で自分の思いや願いを表現でき、互いに認め合える人間関係づくりを大切にする教育(保育)を進める」(27.2%)、並びに「a. いろいろなあそび体験を通して、自分や人の命を大切にする教育(保育)を進める」(26.7%)が高い。[図88]

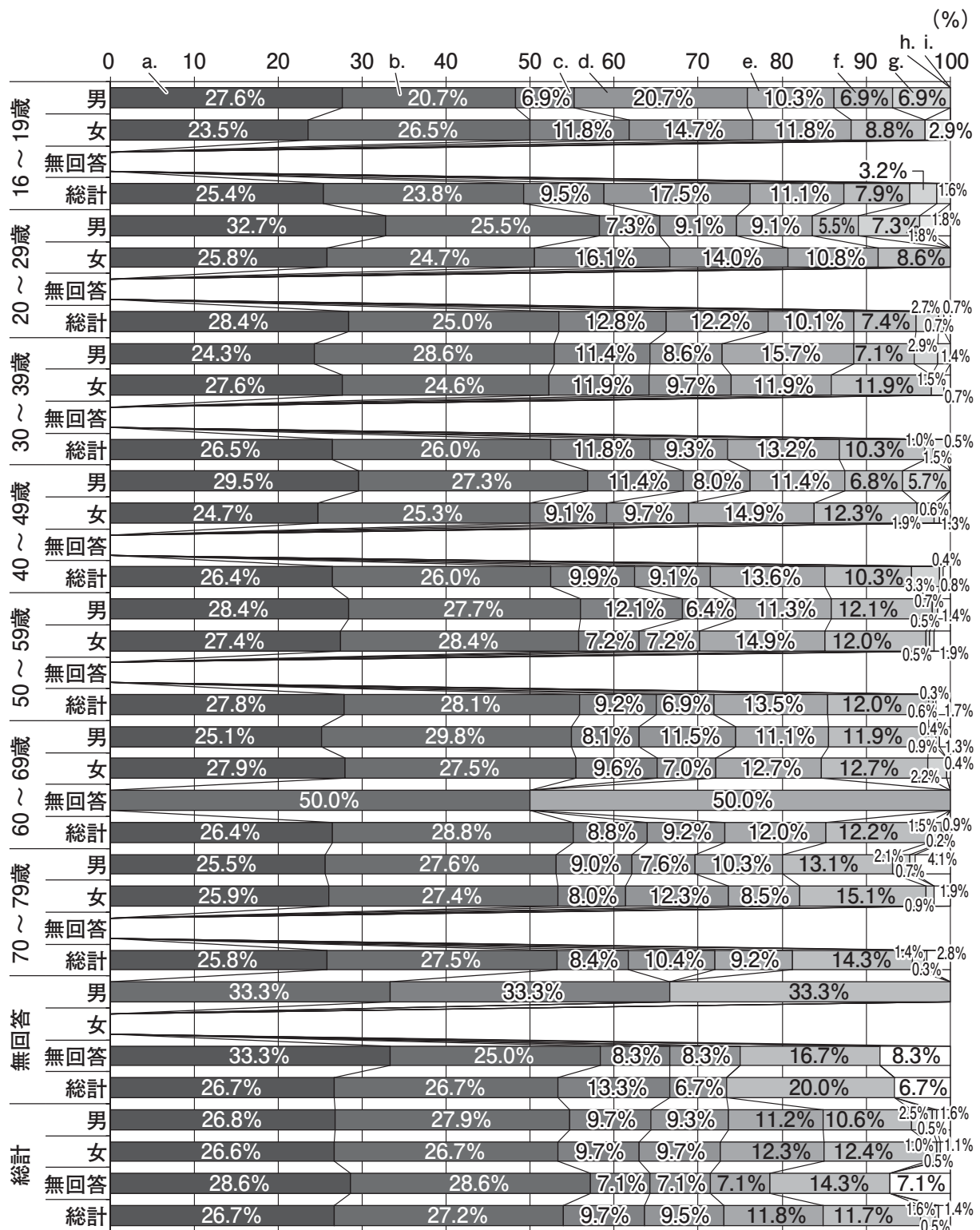


○ 性別[図89]でも、各項目とも男女差はない。

○ 年齢階層別[図89]でみると、「b. 集団の中で自分の思いや願いを表現でき、互いに認め合える人間関係づくりを大切にする教育(保育)を進める」は50～59歳以上の年齢層では最も高く、「a. いろいろなあそび体験を通して、自分や人の命を大切にする教育(保育)を進める」は40～49歳以下の年齢層で最も高い。「d. 障がいのある人、高齢者、外国にルーツを持つ人たちとの交流を大切にする教育(保育)を進める」は16～19歳(17.5%)が高くなっている。



図89

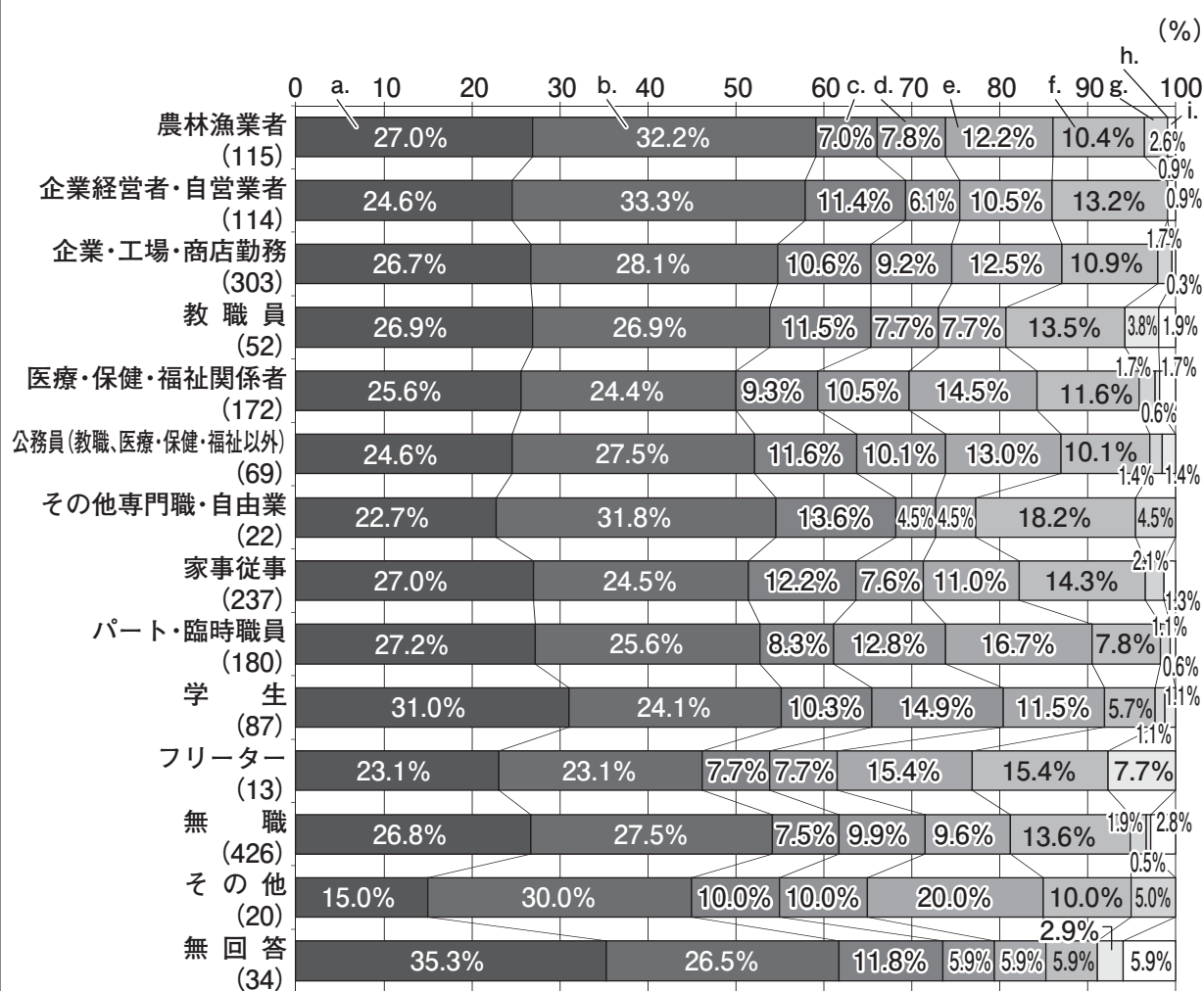


- a. いろいろなあそび体験を通して、自分や人の命を大切にする教育（保育）を進める
- b. 集団の中で自分の思いや願いを表現でき、互いに認め合える人間関係づくりを大切にする教育（保育）を進める
- c. いろいろな文化に関心を持ち、異なった文化を持った人たちと共生できることを大切にする教育（保育）を進める
- d. 障がいのある人、高齢者、外国にルーツを持つ人たちとの交流を大切にする教育（保育）を進める
- e. 偏見やきめつけをなくしていく行動力を育てることを大切にする教育（保育）を進める
- f. 教師・保育士は、同和問題、障がいのある人、外国にルーツを持つ人などの人権問題について正しい理解と認識を深め、人権を大切にする心を育てる教育（保育）を進める
- g. わからない
- h. その他
- i. 無回答

○ **職業別**[図90]にみると、「b. 集団の中で自分の思いや願いを表現でき、互いに認め合える人間関係づくりを大切にする教育(保育)を進める」は企業経営者・自営業者(33.3%)が最も高く、次いで農林漁業者(32.2%)、その他専門職・自由業(31.8%)が高く 30%を超えている。「a. いろいろなあそび体験を通して、自分や人の命を大切にする教育(保育)を進める」は学生(31.0%)が最も高く、次いでパート・臨時職員(27.2%)、主として家事に従事(27.0%)が高い。「e. 偏見やきめつけをなくしていく行動力を育てることを大切にする教育(保育)を進める」はパート・臨時職員(16.7%)、フリーター(15.4%)、医療・保健・福祉関係者(14.5%)などが高くなっている。「f. 教師・保育士は、同和問題、障がいのある人、外国にルーツを持つ人などの人権問題について正しい理解と認識を深め、人権を大切にする心育てる教育(保育)を進める」はその他の専門職・自由業(18.2%)、フリーター(15.4%)、主として家事に従事(14.3%)、無職(13.6%)、学校の教職員(13.5%)などの順に高い。

「d. 障がいのある人、高齢者、外国にルーツを持つ人たちとの交流を大切にする教育(保育)を進める」は学生(14.9%)が高い。

図90



- a. いろいろなあそび体験を通して、自分や人の命を大切にする教育(保育)を進める
- b. 集団の中で自分の思いや願いを表現でき、互いに認め合える人間関係づくりを大切にする教育(保育)を進める
- c. いろいろな文化に関心を持ち、異なった文化を持った人たちと共生できることを大切にする教育(保育)を進める
- d. 障がいのある人、高齢者、外国にルーツを持つ人たちとの交流を大切にする教育(保育)を進める
- e. 偏見やきめつけをなくしていく行動力を育てることを大切にする教育(保育)を進める
- f. 教師・保育士は、同和問題、障がいのある人、外国にルーツを持つ人などの人権問題について正しい理解と認識を深め、人権を大切にする心育てる教育(保育)を進める
- g. わからない
- h. その他
- i. 無回答